選挙過程が有権者の投票参加志向に与える影響

選挙が有権者にもたらすリアリティ

教養学部教養学科４年

12100　出口慎二

contents

Ⅰ．序論
恒常的投票者 1
投票義務感 1
政治的社会化 2
選挙と政治的社会化 3
Ⅱ．調査概要
調査主題 4
調査項目 4
調査の実施 4
実施概要 5
若干の補足 5
Ⅲ．調査結果（単純集計）
単純集計 6
単純集計による各調査の比較① 10
単純集計による各調査の比較② 15
Ⅳ．調査結果（クロス集計）
投票機会の有無による比較 21
投票経験の有無による比較 26
Ⅴ．投票参加と投票参加志向
選挙と有権者の選挙に対する意識 31
投票経験と投票参加志向 32
回答傾向の差が持つ意味 36
Ⅵ．選挙過程における政治的社会化
選挙過程と投票参加志向 39
投票参加志向と投票義務感 39
選挙に対するリアリティ 40
Ⅶ．跋文
調査を終えて 43
引用文献・参考文献 44
Ⅷ．資料編
単純集計 46
地方選挙カレンダー 54
第１回調査クロス表 56

Ⅰ．序論

恒常的投票者

政治家が義務投票制度を口にする程の、近年の国政選挙における投票率の低下である。しかし、相次ぐ政界スキャンダル、数合わせの理論で離合集散する政党、過半数を占める無党派層の存在、争点無き選挙等々といったことを考えるとき、果たして投票率は本当に低いのか、むしろよくこれだけ大勢の人が投票に行くものだ、という考え方もできよう。

確かに、国会議員が全体として国民の２割程度の信任すら受けられないということでは、果たして国民の代表と呼び得るのか疑問になってくる。しかしながら、これといった争点も無く、魅力ある候補者も見当たらない時でさえ、圧倒的多数者が投票に行くような状況は、むしろ異常とも言えるのではないだろうか。こう考えると、選挙毎に投票したりしなかったりする人々がいるのは、社会の状況としてはむしろ自然であるが、代議制民主主義の存続という観点からは、一定数以上の恒常的投票者が常に存在していないと困る、ということになろう。

投票義務感

人はどういった時に投票して、どういった時に棄権するのか。このことに関する議論に、合理的選択によるアプローチがある。人は、自分が投票することによって利益が得られるなら投票するであろうし、そうでなければ棄権するであろう、という考え方である。ところがこのアプローチには、その研究の当初からひとつのパラドックスが付きまとう。こうしたアプローチから導かれる結論は、人は合理的な選択の結果、誰も投票しないというものであった。

このパラドックス克服のためにライカーとオードシュックが付け加えた新たな要因は、「投票義務感」[1]であった。自分がより望ましいと思う候補者が当選することによって、ほかの候補者が当選する場合よりも多く得られるであろう便宜を、自分の投票によって得る確率は微々たるものであり、わざわざコストを払って投票に出向くには値しない。従って誰も投票しない。しかしながら人は、市民の義務である投票をすることによって得られる心理的満足感を得るために、投票に参加する。この、投票参加によって心理的満足感と

いう利益をもたらすものが「投票義務感」であり、これによって、圧倒的多数者の合理的棄権は回避されるとした。

そしてこのことは蒲島郁夫らが1987年に明るい選挙推進協会として行った「選挙に関する全国意識調査」についての蒲島の見解からもうかがえる[1)]。それによると、投票参加に強い相関を示す政治的関与は、「政治参加のコスト感覚」や「政治的義務感」であった。こうした政治的関与の因子を構成する質問項目は、前者について①無風選挙でも投票に行く、②天気が悪くても投票に行く、③投票所が遠くても投票に行く、④用事があっても投票に行く、⑤体調が悪くても投票に行く、かどうかであり、後者については①支持政党や候補者が勝つ見込みがない時には投票しても無駄、②自分一人ぐらい投票しなくてもよい、と考えるかどうかである。前者の「政治参加のコスト感覚」は、現実の投票にあたって払わなくてはならないコストではなく、それらの諸条件を、投票参加に比してどれくらいのコストとして認知しているのかという意識の問題であり、「投票義務感」の強さを現すものと考えられる。そして後者の「政治的義務感」についても、これは「投票義務感」の強さを示すものであろう。

政治的社会化

この「投票義務感」が、「いわば政治文化的要因であり、長い間の社会生活や教育によって身につくものである」[1)]ならば、恒常的投票者について考えるにあたっては、そうした価値観が人々の身につく過程が問題となる。このように、「個人がさまざまな他者や集団との相互的なやりとりを通して、社会的な価値や役割を内面化し、社会的な存在となっていく過程」[2)]を社会化と呼ぶが、これが政治について行われるとき、とくに政治的社会化と呼ぶ。これをさらに、生まれてから成人するまでの初期政治的社会化と、成人してからの後期政治的社会化とに分けるとき、「日本では成人してからの政治的社会化、すなわち後期社会化が重要」[3)]だとされる。

社会化はおもに、ある個人が、すでにその社会の中核的な価値観などを身につけている他者の価値・態度・役割などを真似ることにより、それらを社会的に学習することによって成される[4)]。したがって、社会化においては、社会化される主体が模倣する対象とする他者、すなわちエイジェントが重要となる。例えば幼少期におけるエイジェントは、端的

には両親であり、学校に通うようになれば、教師や仲間集団がエイジェントである。そしてこれらに加えて、マス・メディアもまた「政治的社会化の強力なエイジェント」[2]である。ところが日本においては、こうした初期政治的社会化におけるエイジェントが十分に機能していないため、他への関心に比して政治に対する関心が育たず、これが政治参加を疎外してしまう[2]。したがって、「政治がしだいに自分自身の利害と直接結びつく存在として認知されるようになる」[2]後期政治的社会化の過程に注目する必要があるのである。

選挙と政治的社会化

政治的社会化の初期と後期は成人しているか否かがその境目となるが、これは便宜上有権者になる20歳という年齢を境に二分しているというだけでなく、両者が質の上で異なるが故であろう。それは有権者か否かということであり、投票という「一般有権者の政治参加モードの中で、最も基本的、最も一般的なものであり、一般有権者の政府コントロールの唯一といってよい、制度化された、有効性の高い手段」[3]を手にしているか否かということである。こうしたことを考えると、その「制度化された、有効性の高い手段」を行使する機会である選挙の実施や、実際に投票をすることは、後期政治的社会化が促される決定的に重要な機会ではなかろうか。

初期政治的社会化が不十分であり、成年期における政治参加が見込めないまま、後期政治的社会化も十分に成されないとあれば、もはや代議制民主主義を維持するに足る投票参加は見込めない。そこで、有権者すべてに与えられる重要な社会化の機会であろう選挙と、政治的社会化の関連について考えてみたい。

Ⅱ．調査概要

調査主題

調査主題は、選挙というものを経験することが、有権者の選挙に対する意識にどのような影響を与えるのか、というところにある。このため、対象者と調査方法について、それぞれ以下の点に留意した。調査対象者には、有権者ではあるが、そもそも投票する機会を持ったことのない、つまり有権者になってからまだ自分の選挙区では選挙が行われたことのない者や、投票する機会はあったがまだ投票したことはないという者を選ぶこと。調査方法としては、選挙を間に挟んでの追跡調査で行うこと、である。

調査項目

調査項目は、選挙に対する心理的な関わりかたに沿うように、自由面接やプリテストを経て決定した。具体的には、関心の強そうな者２名、弱そうなもの２名の計４名に、投票態度・その決定要因・政治的関心・政治的有効性感覚・投票義務感・投票参加のコスト感覚・政党支持・日常の情報源、そのほか選挙や政治全般について思いつくことを自由に発言してもらった。これを受けて決定した項目に沿ってワーディングを行い、10名程度を対象としたプリテストを留置法で３回実施、修正した。こうしてできた質問表を電話調査用に改め、今回の調査票を作成した。

調査の実施

調査の実施については、個人で行う都合もあり、電話法にて行った。調査対象者は、有権者でありながら投票する機会や投票した経験を持たない者が多数いるであろう、20歳以上の大学生。具体的には、自身が所属する埼玉大学教養学部の1992年入学者（編入生を除く；1995年度時点４年生）と1993年入学者（同；1995年度時点３年生）のうち、調査時点で同学部に学籍を有していた 316人。そしてこの同一対象者に対して、統一地方選挙（1995.4.9,4.23 ）前、統一地方選挙と参議院選挙（同.7.23 ）のあいだ、そして参議院選挙後の計３回にわたり、追跡調査を行った。尚、対象者の抽出については、そもそも全数が300人程度であるため、全数とした。

実施概要

実施概要は以下のとおり。

	第1回調査(統一地方選前)	第2回調査(参院選前)	第3回調査(参院選後)
調査年月日	1995.3. 8-22	1995.6.12-24	1995.7.24-31
調査対象者（母集団）	埼玉大学教養学部1992-3年入学者*1		
調査対象者数（標本数）	281人*2	272人*3	206人*4
有効回収（回収率）	185人(66%)	183人(67%)	155人(75%)
調査対象者抽出方法	全数		有意抽出法*5
調査方法	電話法		

＊１：但、編入生は含まず、調査当時当該学部に学籍を有した者で、全 316人。

＊２：母集団全数のうち、電話番号が判明した人数。

＊３：母集団全数のうち電話番号が判明した人数から、第１回調査の際に２回目以降の調査を拒否した者を除いた人数。

＊４：第１回および第２回調査に回答のあった者から、既に調査拒否をしていた者を除いた人数。

＊５：第１回および第２回調査に回答のあった者から、既に調査拒否をしていた者を除いた全数を、調査対象者とした。

若干の補足

各調査・各質問において、用意された選択肢に当てはまらない回答をした回答者に対しては、再度質問文・選択肢を読み上げ、その範囲内で回答してもらった。また、質問文の解釈について問われた場合は、「解釈は回答者にまかせていますので…」と告げたうえで、再度質問文・選択肢を読み上げ、回答してもらった。こうしたケースの多くは「選挙」や「候補者」、「投票」といった言葉を特定しないで用いたことや、選択肢が二択であることが原因と思われるものであった。尚、ほとんどの選択肢が二択となっているのは、電話による調査であることに依るところが大きい。

Ⅲ．調査結果（単純集計）

単純集計

以下、第１回調査（Ｎ＝１８５）についてその単純集計を見ていく。尚、今回の調査で母集団とした埼玉大学教養学部について、若干の説明をしておきたい。まず、この学部は文化系の学部であること。そして学科は教養学科１つのみで、「コース」と呼ばれる専攻は人文科学・社会科学の分野から成り、学生の１／３程度が社会科学系の「コース」に属していることである。従って、大学生一般と比べると、多少政治に対する関心が強い蓋然性がある。

◆属性（質問１．～３．）

性別は、ほぼ男女半々。年齢構成は大ざっぱに言って、20歳３割・21歳５割・22歳２割。投票区在住の者は約７割で、残る３割近くの人は投票区外に住んでいる。この人達のなかには、現在の居住地と投票所とが遠く離れている人もいる。

◆投票機会・投票経験（質問ａ．～ｂ．）

選挙権を持ってから調査時点（1995,3. 8-22）までに選挙が行われたという人は47%にあたる87人。また、投票したことがあるという人は51人で、全体の28%。但、これは過去についての質問であり、この数値が事実どおりであるかどうかは回答者の記憶力に依るところが大きい。ちなみに、投票機会があったとする87人に対し、投票経験があるという人は51人で、平均投票率は59%ということになる。尚、前回の衆議院総選挙は２年前の1993年７月18日で全国平均の投票率は67.3%、前回の参議院通常選挙は３年前の1992年７月26日で同投票率は50.7%である。

◆選挙に対するイメージ（質問４．～８．）

選挙結果が国政に影響すると考えている人が54%。自分の一票が候補者の当落を左右すると思っている人も45%と半分ぐらいで、投票することで国政に関与したと感じるという人は、50%の92人。尚、これら３質問ともに否定的な回答をした人は、全体の21%にあた

る39人。これらの人は、選挙のほかに有効性を感じる政治参加の手段を持たないかぎり、国政に対して自分は全くの無力であると感じていることになる。ただし、先程見たように、回答者のうちで実際に投票したことがあると答えた人は、全体の３割に満たない。

投票を義務と考える人は、全体の85%にあたる 157人。タテマエで義務と言う人もいれば、行使すべき権利ではあっても義務ではないと言う人もいるのだが、いずれにせよ、選挙が高い認知を受けていることは確かなようだ。半面、そもそも自分には選挙権は必要ないという人も、全体の18%にあたる33人いる。尚、さきの39人においては、投票を義務と考える人は４人、選挙権は必要という人はほぼ半数の20人。選挙への期待を全く失っている、というわけではないようだ。

◆支持する政党・候補者ないし関心のもてる争点の有無と棄権（質問９．～12．）

支持政党があるという人は全体の14%にあたる25人、支持する政治家がいるという人は同13%の24人。尚、どちらもなし、という人が81%,150人にも達する。しかしながら、支持する政党や候補者のない場合でも投票するという人が46%、関心のもてる争点がない場合でも投票するという人が56%と、半数程度の人が、なにはともあれ投票はするつもりでいるようだ。

◆選挙などに対する関心（質問13．～15．）

関心を払うと答えた人の多い順に並べると、選挙時の選挙広報や政見放送（66%）・日頃の政治の動き（53%）・自分の選挙区の議員の日頃の仕事ぶり（18%）。但、日頃の政治の動きについては、「意識して」注意を払っているかと尋ねているため、他の２つの質問とは単純に比較できない。ともあれ、全体のうちの半分よりも多い人々が、政治や選挙に対して関心を向けてはいるが、それは、自分の住む選挙区選出の議員の活動を日頃からチェックする程の関心ではない、ということになる。

◆党か人か（質問16．）

結果は、個人重視47%、政党重視13%、「一概に言えない」40%といった具合に割れた。個人重視の強さは、やはり、参院比例区を除くすべての選挙が、人を選ぶ制度であるため

なのだろうか。尚、支持する政党ないし政治家を持つ人の割合は、「一概に言えない」と答えた人では16%、個人重視ないし政党重視と答えた人では21%であるが、この差は有意（棄却域５％：以下同）なものではない。

◆投票する・しない、という態度の決定（第２回調査・質問ｅ．×第３回調査・質問ａ．）

第２回調査と第３回調査の両方に回答した 146人について、第２回調査の質問ｅ．と第３回調査の質問ａ．のクロスを取ると、以下のとおり。

◇第３回調査・Ⅱ．７月23日に行われた参議院選挙についてお聞きします。

ａ．あなたは投票に行きましたか。

第2回調査・Ⅱ.7月に行われる予定の参議院選挙についてお聞きします。 e.あなたは、今度の参議院選挙に行きますか。	全体	1. はい	2. いいえ
全　体	１４６(100)	７８（53）	６８（47）
1. かならず行く	３９（27）	３６（25）	３（ 2）
2. できれば行きたい	８９（61）	４０（27）	４９（34）
3. 行かない	１８（12）	２（ 1）	１６（11）

尚、（　）内は母数［ 146］に対するパーセント

第２回調査は、参院選のちょうど１ケ月前までの２週間に行われた。その時点で計57人が、「投票する・しない」について明確に態度表明し（第２回調査，質問ｅ．＝１．ｏｒ３．）、そのうちの９割にあたる52人が、実際にそのとおりの投票行動を採ったことになる。公示が投票日の18日前であることを考えると、この、全体のうちの４割に近い人々は、候補者の顔ぶれや争点にかかわらず、「投票する・しない」を決めている人であると考えられる。

実際、この 146人のうち、参院選に「かならず行く」（第２回調査・質問ｅ．＝１．）と回答した39人においては、支持する政党や候補者がなく、関心のもてる争点もない場合

でも投票すると答えた人（質問９．＝１．，質問10＝１．）が、９割を占める。それに対して、同質問で「行かない」（第２回調査・質問ｅ．＝３．）と答えた18人においては、支持する政党や候補者がなく、関心のもてる争点がない場合は投票しないと答えた人（質問９．＝２．，質問10＝２．）が、７割を占めており、有意な差がみられる*1。

◇質問９．あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも、投票に行きますか。

質問10．あなたは、関心のもてる争点が無い場合でも、投票に行きますか。

（度数は第２回調査と第３回調査の両方に回答した 146人における第２回調査の結果）

第2回調査・Ⅱ．7月に行われる予定の参議院選挙についてお聞きします。 e．あなたは、今度の参議院選挙に行きますか。	全　体	質問9．=1. はい		質問9．=2. いいえ	
		質問10．=1. はい	質問10．=2. いいえ	質問10．=1. はい	質問10．=2. いいえ
全　体	１４６(100)	７６(52)	１１(8)	２２(15)	３７(25)
1.　かならず行く	３９(27)	３５(90)	０(0)	１(3)	３(8)
2.　できれば行きたい	８９(61)	４０(45)	１０(11)	１８(20)	２１(24)
3.　行かない	１８(12)	１(6)	１(6)	３(17)	１３(72)

尚、（　）内は横パーセント

以上から、回答者の４割に近い人々が候補者の顔ぶれや争点にかかわらず「投票する・しない」を決めていると考えられることに加え、質問９．と質問10．について、以下の２点が指摘できる。まず一点は、質問９．と質問10．が、「投票する・しない」という投票参加態度を測るのに有効であるということ。決して「投票する・しない」の両方向を測るものではないが、両質問によって、参院選に「かならず行く」と答えた者の９割が捕捉できている。そしてこの「かならず行く」と答えた者のうちの９割は、実際に投票に行ったのであるから、少なくとも投票参加志向の強い者を拾うことはできているのである。そしてもう一点は、この２つの質問は非常に同質な質問だということである。両質問に対して同一方向の回答をした者は、 146人中のうちの77%、 113人であった。

＊１：表中、網のかかった４つの度数のみで検定。

単純集計による各調査の比較①

以下、３回の調査のうちその全てに回答した者 131人のみについて見ていく。尚、各質問における質問文等については、資料編Ⅰの「単純集計」を参照のこと。

◆性別（質問１）：各調査とも同数で、以下のとおり。

男性　62人（47%）

女性　69人（53%）

◆年齢（質問２）：有意差あり*1。算術平均は、 21.05→ 21.31→ 21.40（歳）。

	第１回調査	第２回調査	第３回調査
全体	131(100)	131(100)	131(100)
20歳	30 (23)	24 (18)	21 (16)
21歳	69 (53)	57 (44)	54 (41)
22歳	29 (22)	37 (28)	39 (30)
23歳	2 (2)	12 (9)	16 (12)
24歳	1 (1)	1 (1)	1 (1)

尚、（　）内は縦パーセント

◆投票区内在住か否か（質問３）：３調査とも大差なく、７割後半が投票区在住。

	第１回調査	第２回調査	第３回調査
全　体	131(100)	131(100)	131(100)
「はい」	98 (75)	104 (79)	102 (78)
「いいえ」	33 (25)	27 (21)	29 (22)

尚、（　）内は縦パーセント

◆ちなみに質問にはないが、回答者の学年別の人数もみてみると以下のとおり。

1993年入学者（1995年度時点３年生）　50人（38%）

1992年入学者（1995年度時点４年生）　81人（62%）

◆投票機会・投票経験など（質問ａ．～ｅ．）

次に、回答者の選挙経験等について見てみたい。この部分は各調査ごとに質問が異なる。まず第１回調査では、そもそもこの調査時点までに投票する機会があったのか、そして実際に投票をした経験はあるのかを尋ねている。そして第２回調査では、統一地方選挙について都道府県レベルと市区町村レベルに分けて、それぞれ選挙は行われたのか、投票には行ったのかを尋ねた。第３回調査では、参議院選挙について投票に行ったかどうかを尋ねた。尚、第２回調査・質問ｅ．（あなたは、今度の参議院選挙に行きますか）については、すでに第２回調査と第３回調査の両方に回答した 146人における結果をみているので、ここでは省略する。

◇第１回調査時点までの投票機会・投票経験

	全体	あり	なし
投票機会	131(100)	66(50)	65(50)

	全体	あり	なし
投票経験	131(100)	39(30)	92(70)

◇統一地方選挙，都道府県知事選挙・都道府県議会議員選挙（平均投票率：43%）

	全体	はい	いいえ
選挙は行われたか	131(100)	104(79)	27(21)

	全体	はい	いいえ
投票に行ったか	131(100)	45(34)	86(66)

◇統一地方選挙，市区町村長選挙・市区町村議会議員選挙（平均投票率：43%）

	全体	はい	いいえ
選挙は行われたか	131(100)	91(69)	40(31)

	全体	はい	いいえ
投票に行ったか	131(100)	39(30)	92(70)

◇参議院選挙（投票率：53%）

	全体	はい	いいえ
投票に行ったか	131(100)	70(53)	61(47)

第１回調査以降に行われた統一地方戦を除く地方選については、質問をしていないため不明だが、この結果だけからでも、投票機会・投票経験を持つ者は、共に各調査ごとに増加したことがわかる*2。さらにひとりひとりについて見てみると、各調査時点までに投票機会を持ったことがある者のパネル全体に占めるパーセンテージは、第１回調査から順に、50%→95%→ 100%と増加。投票経験を持つ者についても同様に見てみると、30%→56%→67%と増加している。したがって、この調査中に65人が初めて投票機会を持ち、49人が初めて投票を経験したことになる。

◇投票機会を有する回答者数

	全　体	あり	なし
第１回調査時点	131(100)	66(50)	65(50)
第２回調査時点	131(100)	125(95)	6(5)
第３回調査時点	131(100)	131(100)	0(0)

尚、（　）内は横パーセント

◇投票経験を有する回答者数

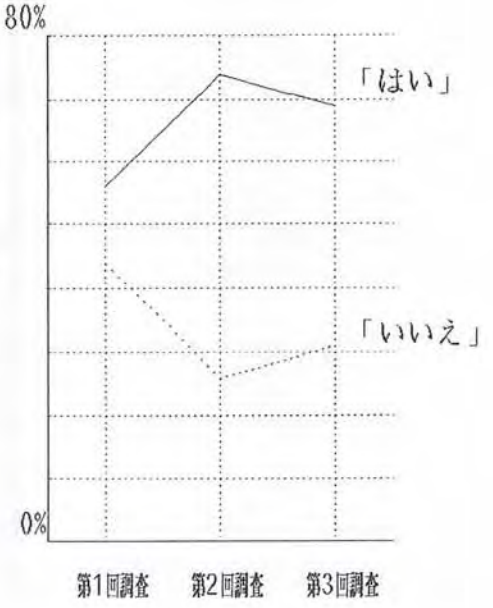
	全　体	あり	なし
第１回調査時点	131(100)	39(30)	92(70)
第２回調査時点	131(100)	73(56)	58(44)
第３回調査時点	131(100)	88(67)	43(33)

尚、（　）内は横パーセント

◆政治的関与など（質問４．～16．）

それでは他の各質問に対する回答を見てみたい（質問４．～16．）。これらのうち３回の調査を通じて各質問に対する回答の分布に有意な差が見られたのは質問４．のみであった。質問４．は、「選挙結果は国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。」という問いに、「はい」か「いいえ」で答えてもらう質問であり、選挙に政治的有効性を感じるかどうかを尋ねた質問と言えるだろう。

◇質問４．



ところで、この質問４．に「はい」と答えた者の増加は、第１回調査から第２回調査にかけてしか見られず、第２回調査から第３回調査にかけては、有意な変化は見られない。質問４．は、選挙結果が「国の政策」に影響を及ぼすと思うかどうかを尋ねる質問であり、参議院選挙後の第３回調査ではなく、地方選挙後の第２回調査でのみ「はい」と答える人数に増加が見られたことが注目される。

＊１：年齢については、とくに断りのない限り、20歳・21歳・22歳・23歳以上の４段階に集計し直してから検定を行っている。

＊２：第１回調査以降に行われた地方選挙については、資料編Ⅱの「地方選挙カレンダー」を参照のこと。

		第1回調査	第2回調査	第3回調査	
全　体		131(100)	131(100)	131(100)	
4	1「はい」	73(56)	97(74)	91(69)	選挙結果は国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。
	2「いいえ」	58(44)	34(26)	40(31)	
5	1「はい」	111(85)	110(84)	109(83)	選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。
	2「いいえ」	20(15)	21(16)	22(17)	
6	1「はい」	58(44)	62(47)	62(47)	自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。
	2「いいえ」	73(56)	69(53)	69(53)	
7	1「はい」	67(51)	78(60)	82(63)	投票することで、国の政治に関与したと感じますか。
	2「いいえ」	64(49)	53(40)	49(37)	
8	1「はい」	113(86)	112(85)	112(85)	あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。
	2「いいえ」	18(14)	19(15)	19(15)	
9	1「はい」	64(49)	79(60)	80(61)	あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも投票に行きますか。
	2「いいえ」	67(51)	52(40)	51(39)	
10	1「はい」	77(59)	87(66)	83(63)	あなたは、関心の持てる争点が無い場合でも投票に行きますか。
	2「いいえ」	54(41)	44(34)	48(37)	
11	1「はい」	18(14)	20(15)	22(17)	あなたには、支持する政党がありますか。
	2「いいえ」	113(86)	111(85)	109(83)	
12	1「はい」	14(11)	23(18)	18(14)	あなたには、支持する政治家がいますか。
	2「いいえ」	117(89)	108(82)	113(86)	
13	1「はい」	89(68)	91(69)	92(70)	あなたは選挙のとき、選挙広報や政見放送などを見ますか。
	2「いいえ」	42(32)	40(31)	39(30)	
14	1「はい」	26(20)	30(23)	30(23)	あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。
	2「いいえ」	105(80)	101(77)	101(77)	
15	1「はい」	74(56)	80(61)	80(61)	あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。
	2「いいえ」	57(44)	51(39)	51(39)	
16	1「候補者の所属政党」	19(15)	11(8)	12(9)	あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。
	2「候補者個人」	58(44)	51(39)	53(40)	
	3「一概に言えない」	54(41)	69(53)	66(50)	

単純集計による各調査の比較②

以上、３調査のうちその全てに回答した者 131人のみについて見てきたが、有意な変化に乏しいので、各調査ごとに回答した全ての人で比較してみたい。各調査ともに、その全ての質問について、先の 131人による集計結果と全回答者による集計結果のあいだに有意な差は認められなかった。尚、回答者総数は、第１回調査が 185人、第２回調査が 183人、第３回調査が 155人。

◆性別（質問１．）：有意差なし。

	第１回調査	第２回調査	第３回調査
全体	185(100)	183(100)	155(100)
男性	91 (49)	87 (48)	71 (46)
女性	94 (51)	96 (52)	84 (54)

尚、（　）内は縦パーセント

◆年齢（質問２．）：有意差あり。算術平均は 20.99→ 21.23→ 21.37

	第１回調査	第２回調査	第３回調査
全体	185(100)	183(100)	155(100)
20歳	54 (29)	43 (23)	27 (17)
21歳	91 (49)	77 (42)	64 (41)
22歳	34 (18)	45 (25)	45 (29)
23歳	2 (1)	15 (8)	17 (11)
24歳	3 (2)	2 (1)	2 (1)
25歳	0 (0)	0 (0)	0 (0)
26歳	1 (1)	1 (1)	0 (0)

尚、（　）内は縦パーセント

◆投票区在住か否か（質問３．）：有意差なし。

	第１回調査	第２回調査	第３回調査
全　体	185(100)	183(100)	155(100)
「はい」	132 (71)	141 (77)	122 (79)
「いいえ」	53 (29)	42 (23)	33 (21)

尚、（　）内は縦パーセント

◆投票機会・投票経験など（質問ａ．～ｅ．）

投票機会などについては、全ての人について３回とも回答を得ているわけではないので、単純集計以上のことはわからない。

◇第１回調査時点までの投票機会・投票経験

	全体	あり	なし
投票機会	185(100)	87(47)	98(53)

	全体	あり	なし
投票経験	185(100)	51(28)	134(72)

◇統一地方選挙，都道府県知事選挙・都道府県議会議員選挙（平均投票率：42%）

	全体	はい	いいえ
選挙は行われたか	183(100)	144(79)	39(21)

	全体	はい	いいえ
投票に行ったか	183(100)	61(33)	122(67)

◇統一地方選挙，市区町村長選挙・市区町村議会議員選挙（平均投票率：39%）

	全体	はい	いいえ
選挙は行われたか	183(100)	127(69)	56(31)

	全体	はい	いいえ
投票に行ったか	183(100)	50(27)	133(73)

◇参議院選挙（投票率：52%）

	全体	はい	いいえ
投票に行ったか	155(100)	81(52)	74(48)

投票率を見ていくと、第１回調査時点での平均投票率は59%で、統一地方選挙の都道府県レベルでは42%、地区町村レベルでは39%、参院選では52%となっている。第１回調査については回答者の記憶に依るところが大きく、実際と食い違うかもしれない。尚、前回の総選挙は第１回調査の２年前の1993年７月18日で全国平均の投票率は67.3%、前回の通常選挙は同３年前の1992年７月26日で同投票率は50.7%である。

尚、先にも述べたとおり、すべての人から３回とも回答を得ているわけではないが、一応回答者の投票機会・投票経験について各調査回ごとに見てみたい。したがってここでは、その調査において尋ねた選挙に関してのみの投票機会・経験ということになる。第１回調査（N＝ 185）ではそれまでの記憶にある限りすべての選挙、第２回調査（N＝ 183）では統一地方選挙、第３回調査（N＝ 155）では参議院選挙に関してのみの投票機会・経験である。こうして見てみても、投票機会・投票経験を持つ者の人数は、ともに調査回に対して有意に増加している。

◇投票機会を有する回答者数

	全体	あり	なし
第1回調査時点まで	185(100)	87(47)	98(53)
統一地方選挙	183(100)	163(89)	20(11)
参議院選挙	155(100)	155(100)	0(0)

尚、（　）内は横パーセント

◇投票経験を有する回答者数

	全体	あり	なし
第1回調査時点まで	185(100)	51(28)	134(72)
統一地方選挙	183(100)	71(39)	112(61)
参議院選挙	155(100)	81(52)	74(48)

尚、（　）内は横パーセント

◆政治的関与など（質問４．～16．）

それでは他の各質問に対する答えを見てみたい（質問４．～16．）。これらのうち、３回の調査を通じて各質問に対する回答の分布に有意な差が見られたのは、質問４．、質問７．、質問９．の３つであった。質問４．は、選挙結果が国政に反映されていると思うか否か、質問７．は、投票することで国政に関与したと感じるか否か、質問９．は、支持する政党や候補者のない場合でも投票に行くか否かを尋ねている。

尚、質問７．においては、第１回調査・第２回調査間よりも第２回調査・第３回調査間の差が大きくでているが、第３回調査は参議院選挙の直後に行われており、「国」の政治への関与を感じると答える者の人数が増えるのはごく自然なことであろう。因みに質問７．については、第１回調査・第２回調査間と第２回調査・第３回調査間とに分けてしまうと、ともに有意差は認められない。

これに対して、やはり「国」の政策に対する選挙結果の持つ影響力を問う質問４．においては、第１回調査・第２回調査間で有意な回答の変化が見られるが、第２回調査・第３回調査間に有意な回答の変化は見られない。そしてこの傾向は質問９．においても同様である。

以上見てきた結果、このように比較してみた場合に有意な変化が見られたのは、以下の６つの項目となる。年齢、投票機会、投票経験、質問４．、質問７．、質問９．である。質問４．は先に見たように、「選挙結果は国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか」という質問であり、選挙に対する政治的有効性感覚と言えるだろう。質問７．は、「投票することで国の政治に関与したと感じますか」という質問であり、選挙を通じての国政に対する政治的有力感を尋ねる質問と言えよう。そして質問９．は、「あなたは、支

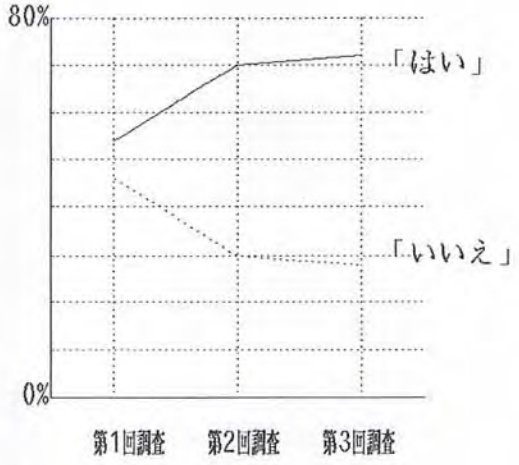
		第1回調査	第2回調査	第3回調査	
全　体		185(100)	183(100)	155(100)	
4	1「はい」	100(54)	128(70)	111(72)	選挙結果は国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。
	2「いいえ」	85(46)	55(30)	44(28)	
5	1「はい」	157(85)	152(83)	129(83)	選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。
	2「いいえ」	28(15)	31(17)	26(17)	
6	1「はい」	83(45)	88(48)	74(48)	自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。
	2「いいえ」	102(55)	95(52)	81(52)	
7	1「はい」	93(50)	101(55)	100(65)	投票することで、国の政治に関与したと感じますか。
	2「いいえ」	92(50)	82(45)	55(35)	
8	1「はい」	152(82)	153(84)	133(86)	あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。
	2「いいえ」	33(18)	30(16)	22(14)	
9	1「はい」	85(46)	103(56)	94(61)	あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも投票に行きますか
	2「いいえ」	100(54)	80(44)	61(39)	
10	1「はい」	103(56)	113(62)	99(64)	あなたは、関心の持てる争点が無い場合でも投票に行きますか。
	2「いいえ」	82(44)	70(38)	56(36)	
11	1「はい」	25(14)	25(14)	26(17)	あなたには、支持する政党がありますか。
	2「いいえ」	160(86)	158(86)	129(83)	
12	1「はい」	24(13)	29(16)	20(13)	あなたには、支持する政治家がいますか。
	2「いいえ」	161(87)	154(84)	135(87)	
13	1「はい」	122(66)	118(64)	110(71)	あなたは選挙のとき、選挙広報や政見放送などを見ますか。
	2「いいえ」	63(34)	65(36)	45(29)	
14	1「はい」	33(18)	36(20)	33(21)	あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。
	2「いいえ」	152(82)	147(80)	122(79)	
15	1「はい」	98(53)	107(58)	94(61)	あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。
	2「いいえ」	87(47)	76(42)	61(39)	
16	1「候補者の所属政党」	24(13)	15(8)	20(13)	あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。
	2「候補者個人」	87(47)	74(40)	59(38)	
	3「一概に言えない」	74(40)	94(51)	76(49)	

持する政党や候補者のない場合でも、投票に行きますか」という質問で、既に見たように、これは投票参加志向と言えるだろう。この３つの質問について「はい」という回答が増加したということは、選挙というものを支持する態度が強まった、と言って良いだろう。

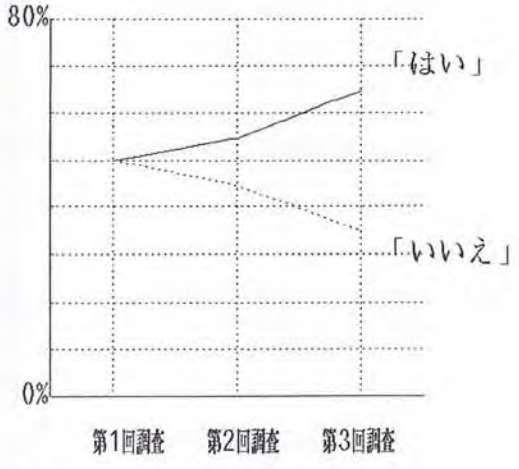
ここでは各調査ごとに回答した全ての人で比較しているため、３回の調査の全てに回答しているのではない者も含まれている。このため、投票機会・投票経験について、各回答者ごとに累積していくことができないので、投票機会・投票経験とその他の質問に対する回答の変化を比較することはできない。ただし、このようにして比較してみた結果、年齢、投票機会、投票経験、質問４．の他に、質問７．と質問９．においても有意差がみられたことには意味がある。このように全回答者の回答を使うことで総度数（Ｎ）を増やし、検定力を上げて得た結果を参考にすることは、131人のパネルについて検討する際の第２種の過誤を免れることに役立つと思われるからである[*1]。

＊１：有意差検定にはカイ二乗検定を用いており、その検定力は総度数（Ｎ）の影響を受ける。

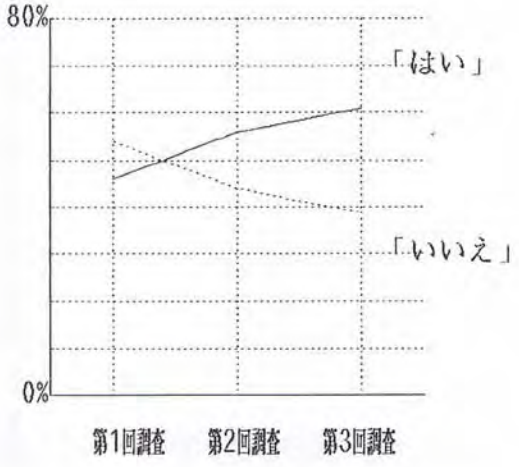
◇質問４．



◇質問７．



◇質問９．



Ⅳ．調査結果（クロス集計）

これまで、第１回調査の単純集計の結果を見たり、各調査回ごとの単純集計を比較したりしてきた。その結果、まず、調査回ごとに回答者集団の平均年齢、投票機会を持ったことのある回答者数、投票経験を持つ回答者数が増加していることを確認した。これらはそもそも累積されていく性質のものである。しかし、今回の一連の調査の主題は、選挙というものを経験することが、有権者の選挙に対する意識にどのような影響を与えるのかを探るところにあった。従って、投票機会を持ったことのある回答者数、投票経験を持つ回答者数の増加を確認できたことで、ひとまずは、この調査が調査主題に沿うかたちで行われたことを確認できるのである。

この３回の調査の全てに回答した者は 131人いたが、この内に、調査中に初めて投票機会を持った者が65人、初めて投票を経験した者が49人いたことが分かった。最終的にはこうした人達を通じて、投票機会・投票経験の有無と選挙に対する意識との相関を見ていくことになる。しかしながら、50人程度の人数についてだけを見ることで、多少なりとも信頼に値する結論を導こうとすることには、いささかの無理があるだろう。そこで、彼等に注目する前に、投票機会・投票経験の有無とその他の質問とをクロスさせた結果を見ておきたい。その際、投票機会・投票経験ともに、それを持つ者と持たない者がほぼ半々に割れた調査回の結果を用いることにする。したがって、投票機会については第１回調査を、投票経験については、第２回調査を見ることとなる。

投票機会の有無による比較

それではまず投票機会の有無による比較から見てみたい。先に述べたように、第１回調査の結果を用いる。尚、総度数は 185で、このうち投票する機会があったという回答者が47%にあたる87人、まだ投票する機会を持ったことはないという回答者が53%にあたる98人。

◆性別（質問１．）：有意差あり。投票機会を持つ者には男性が多く、投票機会を持たない者には女性が多い*1。

	全体	男性	女性
投票機会あり	87(100)	56(64)	31(36)
投票機会なし	98(100)	35(36)	63(64)

尚、（　）内は横パーセント

◆年齢（質問２．）：有意差あり。算術平均は投票機会を持つ者では21.5歳、機会を持たない者では20.5歳。

	全体	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳以上
投票機会あり	87(100)	5(6)	45(52)	31(36)	2(2)	4(5)
投票機会なし	98(100)	49(50)	46(47)	3(3)	0(0)	0(0)

尚、（　）内は横パーセント

◆投票区在住か否か（質問３．）：有意差なし。およそ 3/4が投票区在住。

	全体	「はい」	「いいえ」
投票機会あり	87(100)	64(74)	23(26)
投票機会なし	98(100)	68(69)	30(31)

尚、（　）内は横パーセント

◆投票経験の有無：投票機会を持つ者のうち、59%が投票経験を持つ。*2

	全体	あり	なし
投票機会あり	87(100)	51(59)	36(41)
投票機会なし	98(100)	0(0)	98(100)

尚、（　）内は横パーセント

◆政治的関与など（質問４．～16．）

有意差の見られる質問なし*2。従って、今までに見てきた選挙に対する制度支持態度の

		投票機会あり	投票機会なし	
全　体		87(100)	98(100)	
4	1「はい」 2「いいえ」	47 (54) 40 (46)	53 (54) 45 (46)	選挙結果は国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。
5	1「はい」 2「いいえ」	73 (84) 14 (16)	84 (86) 14 (14)	選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。
6	1「はい」 2「いいえ」	36 (41) 51 (59)	47 (48) 51 (52)	自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。
7	1「はい」 2「いいえ」	42 (48) 45 (52)	51 (52) 47 (48)	投票することで、国の政治に関与したと感じますか。
8	1「はい」 2「いいえ」	76 (87) 11 (13)	76 (78) 22 (22)	あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。
9	1「はい」 2「いいえ」	41 (47) 46 (53)	44 (45) 54 (55)	あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも投票に行きますか。
10	1「はい」 2「いいえ」	46 (53) 41 (47)	57 (58) 41 (42)	あなたは、関心の持てる争点が無い場合でも投票に行きますか。
11	1「はい」 2「いいえ」	14 (16) 73 (84)	11 (11) 87 (89)	あなたには、支持する政党がありますか。
12	1「はい」 2「いいえ」	12 (14) 75 (86)	12 (12) 86 (88)	あなたには、支持する政治家がいますか。
13	1「はい」 2「いいえ」	61 (70) 26 (30)	61 (62) 37 (38)	あなたは選挙のとき、選挙広報や政見放送などを見ますか。
14	1「はい」 2「いいえ」	18 (21) 69 (79)	15 (15) 83 (85)	あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。
15	1「はい」 2「いいえ」	49 (56) 38 (44)	49 (50) 49 (50)	あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。
16	1「候補者の所属政党」 2「候補者個人」 3「一概に言えない」	14 (16) 45 (52) 28 (32)	10 (10) 42 (43) 46 (47)	あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。

強化は、投票機会の有無ではない別の事柄と関係していると考えられる。

当然ながら、投票機会についての回答が事実と大きく異なっていたり、回答選択肢が二択であるために差が出なかったなどといった理由で、有意差が見られなかっただけかもしれない。また、そもそも今回の調査にあたって想定したものとは異なる事柄こそが、「選挙」という制度を支持する態度の強化に関係するのかもしれない*3。しかしながら、当初の目的に沿って、つぎに投票経験の有無による比較をしてみたい。

＊１：男女間の年齢構成が異なるためと考えられる。男女間で有意な差が見られるのは、年齢と投票機会、投票することは有権者の義務と思うかどうかを尋ねた質問５．の３つ。

◇質問１．「あなたは男性ですか、女性ですか。」

質問２．「年齢はおいくつですか。」

	全　体	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24歳以
男　性	91(100)	22(24)	39(43)	24(26)	2(2)	4(4)
女　性	94(100)	32(34)	52(55)	10(11)	0(0)	0(0)

尚、（　）内は横パーセント

◇質問１．「あなたは男性ですか、女性ですか。」

質問５．「選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。」

	全体	「はい」	「いいえ」
男性	91(100)	72(79)	19(21)
女性	94(100)	85(90)	9(10)

尚、（　）内は横パーセント

＊２：投票する機会を持ったことがない者は投票経験を持ち得ない一方で、第一回調査時点で投票する機会を持ったことがある者では６割近い人が投票経験を持っていた。そして後に見るように、投票経験の有無により有意な差を示す質問は、複数見られる。このことから考えると、投票機会の有無による比較は投票経験の有無

による影響を受けるはずである。ところがこの影響が見られなかったことから、投票する機会を持ったことのある者のなかで、投票経験を持つ者・持たない者の回答傾向が相殺し合っていることが予想される。つまり、投票する機会がありながら投票したことはないという者は、投票経験者が全解答者に対して有意な差を示す質問について、それと反対方向の回答傾向を示すことが予想されることになる。仮に政治的関与等についての質問に「はい」と答えた者を、政治的関与が強いとするならば、投票する機会がありながら投票したことはないという者は、そもそも投票する機会を持たない者よりも政治的関与が低いことになる。

今回の調査では、選択肢が「はい」・「いいえ」の二択となっているため、このままでは「ばらつき」について知ることはできない。しかし以上のことから、投票機会のある者とない者のとでの間では、平均的な政治的関与の在り方は同じでも、その集団内における「ばらつき」具合という点で差があることが予想される。

＊３：投票機会の有無ではない別の事柄で、選挙制度支持態度の強化と関係していると考えられるものには、例えば次のようなものがあろう。

①選挙制度支持態度の強化は、今回の調査項目に無い、なにか他の事柄に要因が求められる。例えばこの場合、調査対象者が籍を置く埼玉大学は東京圏に位置しており、とくに世界都市博覧会中止の公約を掲げて当選、実際にこの公約を実行した青島幸男東京都知事に関する報道が影響したということが考えられる。都市博中止の決断は1995年 5月31日に成されたが、これは第２回調査を始める２週間程前にあたる。

②選挙制度支持態度は、保存されるものではなく、選挙の度に活性化される性質のものである。この場合、その態度が強く見られるか弱く見られるかは、調査の時期に依ることになる。実際、第１回調査の時期までの１年半以上には国レベルの選挙も行われていないし、第１回調査は統一地方選挙の公示より前に終了していた。これに対して第２回調査は統一地方選挙と参議院選挙の間、第３回調査は参議院選挙直後であった。

投票経験の有無による比較

今度は投票経験の有無で比較してみたい[*1]。ここでは先に触れたように、第２回調査の結果を用いる。総度数は、投票経験について各回答者ごとに辿る必要があるため、第１回調査と第２回調査の両方に回答した 157で、このうち投票したことがあるという回答者が51%にあたる80人、まだ投票したことはないという回答者が49%にあたる77人。

◆性別（質問１．）：有意差なし。ともに半々より若干女性が多い。

	全体	男性	女性
投票経験あり	80(100)	39(49)	41(51)
投票経験なし	77(100)	35(45)	42(55)

尚、（　）内は横パーセント

◆年齢（質問２．）：有意差なし。平均年齢は投票経験があるものでは21.5歳、投票経験がない者では21.0歳。

	全　体	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24歳以
投票経験あり	80(100)	12(15)	34(43)	24(30)	7(9)	3(4)
投票経験なし	77(100)	23(30)	34(44)	15(19)	5(6)	0(0)

尚、（　）内は横パーセント

◆投票区在住か否か（質問３．）：有意差あり。現在の居住地と投票区が異なる者は、投票経験がある者では約１割なのに対し、投票経験がない者では、約４割を占める。

	全　体	「はい」	「いいえ」
投票経験あり	80(100)	71(89)	9(11)
投票経験なし	77(100)	47(61)	30(39)

尚、（　）内は横パーセント

◆選挙が行われたか否か：都道府県レベル・市区町村レベルとも有意差なし。

	全体	都道府県レベル	
		あり	なし
投票機会あり	80(100)	64(80)	16(20)
投票機会なし	77(100)	58(75)	19(25)

尚、（　）内は横パーセント

	全体	市区町村レベル	
		あり	なし
投票経験あり	80(100)	57(74)	23(29)
投票経験なし	77(100)	51(66)	26(34)

尚、（　）内は横パーセント

◆投票に行ったか否か：都道府県レベル投票率61%、市区町村レベル投票率53%。

	全体	都道府県レベル	
		あり	なし
投票経験あり	80(100)	49(61)	31(39)
投票経験なし	77(100)	0(0)	77(100)

尚、（　）内は横パーセント

	全体	市区町村レベル	
		あり	なし
投票経験あり	80(100)	42(53)	38(48)
投票経験なし	77(100)	0(0)	77(100)

尚、（　）内は横パーセント

◆質問ｅ．「あなたは、今度の参議院選挙に行きますか。」：有意差あり。投票経験がある者の36%が「かならず行く」と答え、投票経験がない者の30%が「行かない」と回答。

	全　体	1.かならず行く	2.できれば行きたい	3.行かない
投票経験あり	80(100)	29(36)	51(64)	0(0)
投票経験なし	77(100)	5(6)	49(64)	23(30)

尚、（　）内は横パーセント

◆政治的関与など

有意差が見られた質問は、質問７．、質問８．、質問９．、質問10．、質問13．、質問15．の６質問。これらの質問はいずれも、選挙に対する制度支持態度につながるものであろう。質問７．そして質問９．と質問10．は、既に見てきたように、政治的有力感や投票参加志向を問う質問と言える。また質問８．は、「あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか」という質問であり、例え消極的であれ、ともかくも選挙制度を受容するという点で、基本的な政治的社会化が為されているかどうかを確認する質問と言える。そして質問13．は、「あなたは選挙の時、選挙広報や政権放送を見ますか」という質問であり、選挙に対する関心の有無を尋ねる質問、質問15．は、「あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。」という質問であり、こちらはとくに選挙ということではなく、政治一般に対する関心の有無を尋ねる質問である。

一方で、既に調査回ごとに比較した結果有意な差が見られた質問は、年齢や投票機会、投票経験に加え、質問４．、質問７．、質問９．であった。このうち質問４．については投票機会のみならず、投票経験による比較でも有意差は見られなかった。このことから、質問４．、すなわち選挙に対する政治的有効性感覚の変化は、投票機会や投票経験の有無とは相関を持たないと考えるべきであろう。むしろ青島幸男東京都知事が世界都市博覧会中止の公約を守ったことなどが影響したと考えられる。そしてこのことを裏返して考えれば、質問７．や質問９．、つまり政治的有力感や投票参加志向は、投票を経験することと相関を持つと考え得ることになる。

尚、その他の質問８．、質問10．、質問13．、質問15．も、調査回による比較で、有意でないながらも回答に変化が見られている。これらの質問については、第１回調査時点で

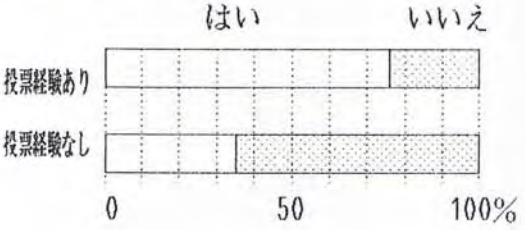
		投票経験あり	投票経験なし	
全　体		80(100)	77(100)	
4	1「はい」	59 (74)	51 (66)	選挙結果は国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。
	2「いいえ」	21 (26)	26 (34)	
5	1「はい」	67 (84)	63 (82)	選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。
	2「いいえ」	13 (16)	14 (18)	
6	1「はい」	38 (48)	34 (44)	自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。
	2「いいえ」	42 (53)	43 (56)	
7	1「はい」	53 (66)	34 (44)	投票することで、国の政治に関与したと感じますか。
	2「いいえ」	27 (34)	43 (56)	
8	1「はい」	73 (91)	55 (71)	あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。
	2「いいえ」	7 (9)	22 (29)	
9	1「はい」	61 (76)	27 (35)	あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも投票に行きますか。
	2「いいえ」	19 (24)	50 (65)	
10	1「はい」	62 (78)	33 (43)	あなたは、関心の持てる争点が無い場合でも投票に行きますか。
	2「いいえ」	18 (23)	44 (57)	
11	1「はい」	14 (18)	7 (9)	あなたには、支持する政党がありますか。
	2「いいえ」	66 (83)	70 (91)	
12	1「はい」	14 (18)	15 (19)	あなたには、支持する政治家がいますか。
	2「いいえ」	66 (83)	62 (81)	
13	1「はい」	68 (85)	33 (43)	あなたは選挙のとき、選挙広報や政見放送などを見ますか。
	2「いいえ」	12 (15)	44 (57)	
14	1「はい」	21 (26)	12 (16)	あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。
	2「いいえ」	59 (74)	65 (84)	
15	1「はい」	55 (69)	38 (49)	あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。
	2「いいえ」	25 (31)	39 (51)	
16	1「候補者の所属政党」	9 (11)	3 (4)	あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。
	2「候補者個人」	32 (40)	33 (43)	
	3「一概に言えない」	39 (49)	41 (53)	

すでにある程度の回答傾向が現れていたため、調査回で比較しても有意差が見られなかったと考えられる。

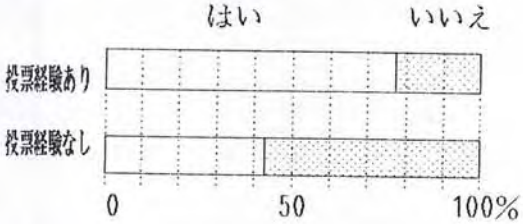
◇質問７．

◇質問８．

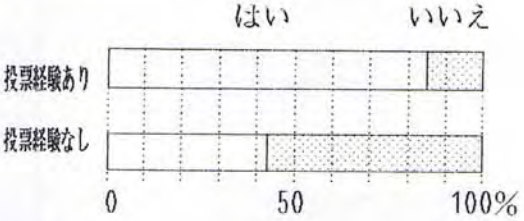
◇質問９．



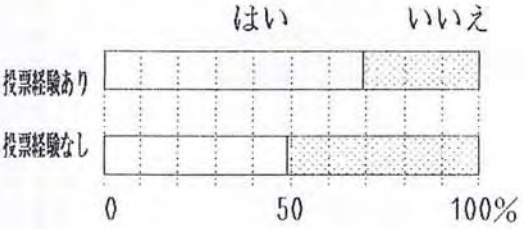
◇質問10．



◇質問13．



◇質問15．



＊１：既に見たように、第２回調査時点で投票機会を持ったことのない者は５％にあたる６人のみ。従って、層別化要因である投票経験の有無は、投票機会の有無による影響をほとんど受けていないと見做せるであろう。

Ⅴ．選挙過程と投票参加志向

選挙と有権者の選挙に対する意識

有権者にとって、選挙というものを経験することがどのような意味を持つかを考えることが、この一連の調査の目的であった。そのため、これまでに単純集計に加え、調査回による比較、投票機会による比較、投票経験による比較を行ってきた。ここまでの作業において、以下のようなこと等が観察された。

まず単純集計からは、調査回答者の最頻年齢は21歳であり、投票経験者が３割にも満たないながらも、選挙に対するイメージはなかなか肯定的であること。８割もの回答者が支持する政党も政治家も持たないが、全体の半数程度の人は、なにはともあれ投票はするつもりであること。さらに、全体のほぼ４割にあたる回答者は、参院選公示よりも以前に参院選に行くか行かないかを決めており、そのうちの９割にあたる回答者が、実際にそのとおりの投票行動を採ったことなどが分かった。ここからは、有権者になってまだ間もなく、投票経験も乏しいこの時点でも、すでに恒常的投票者がいることがうかがえる。

そして調査回による比較からは、投票機会や投票経験を有する者が増えるにしたがって、回答者の選挙に対する政治的有効性感覚、政治的有力感、そして投票参加志向が高まることが観察された。

次に、こうした選挙という制度を支持する方向の態度変化は何によってもたらされるのかを考えるために、投票する機会を持ったことがあるかどうか、すなわち有権者になってからこれまでに選挙が行われことがあるかどうかで回答者を２つのグループに分けて比較した。この結果、それぞれのグループ間には回答傾向の差は見られなかったが、各グループ内における回答傾向のばらつきが、両グループ間では異なる可能性が指摘された。つまり、投票機会を持ったことのないグループに比べて、投票機会を持ったことのあるグループ内ではより回答傾向のばらつきが大きくなっているかもしれない、ということである。

さらに、投票経験の有無により回答者を２つのグループに分けて比較したところ、選挙という制度に対する支持態度に関係を持つであろう６つの質問において、回答傾向の差が見られた。それらは政治的有力感や基本的な選挙制度認知、投票参加志向、そして選挙に対する関心や政治一般に対する関心を問うものであった。ところがここでは、調査回による比較で差の見られた、選挙に対する政治的有効性感覚については差が現れなかった。

投票経験と投票参加志向

これらの結果を踏まえて、選挙が有権者の選挙に対する影響を考えることになるが、それにあたり、最後にもう一つ、投票の前と後での比較をしてみたい。

さきに見てきた結果を考えると、この一連の調査で用いた質問票から観察できる回答傾向の変化は、とくに投票経験と関係があることが予想される。そして、すでに見てきた調査回による比較において、回答傾向の変化は、第２回調査と第３回調査間におけるよりも第１回調査と第２回調査間で著しかった。そこで各調査における投票経験について見ると、第１回調査から第２回調査の間に初めて投票を経験した回答者は、３回の調査のうちその全てに回答した 131人のうち34人なのに対し、第２回調査から第３回調査の間に初投票をした回答者は同 131人のうち15人であり、第１回調査と第２回調査の間に初めて投票を経験した人数のほうが多い。初めてかどうかにかかわらず投票経験を有する人数を比べれば、第２回調査時点よりも第３回調査時点のほうが多いのであるから、仮に調査回による比較で見られた回答傾向の変化が投票経験によるものとするならば、それは２回目以降の投票ではなくて初めての投票がとくに影響することになる。

こうした理由により、ここでは第１回調査と第２回調査の間に初めて投票を経験した者について、第１回調査と第２回調査間の回答を比較したい。第１回調査と第２回調査の両方に回答した者は 157人いるが、そのうちこの両調査間に初めて投票に行った者は38人であった。総度数としては小さいが、この38人の初投票前後の選挙に対する意識の変化について、これまでの結果と照らし合わせながら見ていきたい。

◆性別（質問１．）：男性よりも女性が多い*1。

	全体	男性	女性
第１回調査	38(100)	14(37)	24(63)
第２回調査	38(100)	14(37)	24(63)

尚、（　）内は横パーセント

◆年齢（質問２．）：平均年齢は第１回調査時点で20.7歳、第２回調査時点で20.8歳とほとんど同じ。ともに各調査回全回答者の平均年齢よりは若干若い。

	全　体	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24歳以
第１回調査	38(100)	14(37)	23(61)	1(3)	0(0)	0(0)
第２回調査	38(100)	11(29)	26(68)	0(0)	1(3)	0(0)

尚、（　）内は横パーセント

◆投票区在住か否か（質問３．）：ほとんどの者が投票区在住。

	全　体	「はい」	「いいえ」
第１回調査	38(100)	35(92)	3(8)
第２回調査	38(100)	36(95)	2(5)

尚、（　）内は横パーセント

◆投票機会の有無（第１回調査・質問ａ．，第２回調査・質問ａ．質問ｅ．）：統一地方選挙で初めて投票した者のうちの９割にとって、これが有権者になって以来初めての選挙。

	全体	あり	なし
第１回調査	38(100)	3 (8)	35(92)
第２回調査	38(100)	38(100)	0(0)

尚、（　）内は横パーセント

◆第２回調査・質問ｅ．「あなたは、今度の参議院選挙に行きますか。」：統一地方選挙で投票に行った者のうちの４割が、参議院選挙に「かならず行く」と回答。

	全体	1.かならず行く	2.できれば行きたい	3.行かない
第２回調査	38(100)	15(39)	23(61)	0(0)

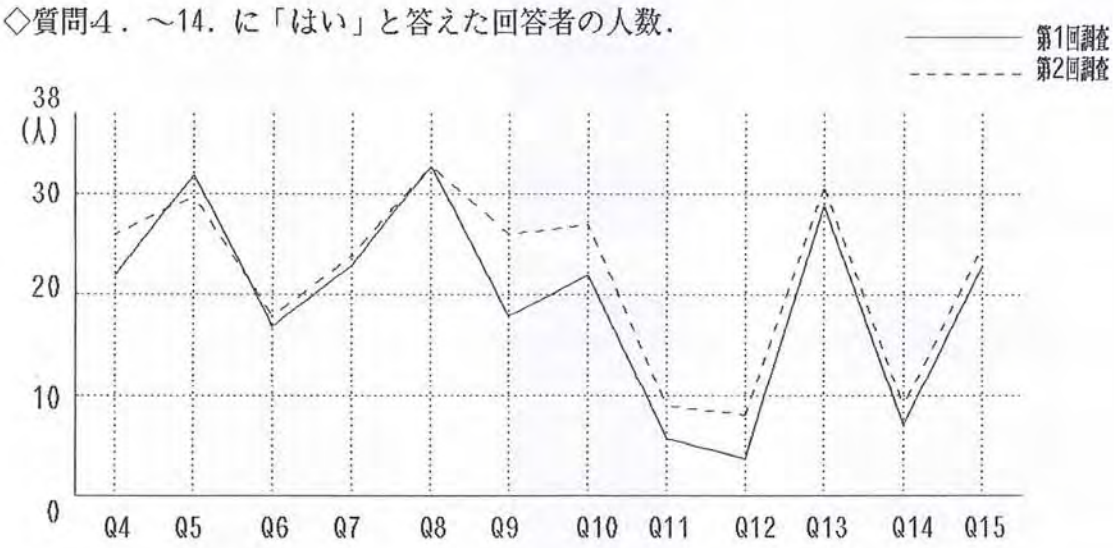
尚、（　）内は横パーセント

◆政治的関与など（質問４．～16．）

有意差なし。各調査回の総度数が38であり、10%の差はわずか４人程の差でしかないの

		第1回調査	第2回調査	
全　体		38(100)	38(100)	
4	1「はい」 2「いいえ」	22 (58) 16 (42)	26 (68) 12 (32)	選挙結果は国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。
5	1「はい」 2「いいえ」	32 (84) 6 (16)	30 (79) 8 (21)	選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。
6	1「はい」 2「いいえ」	17 (45) 21 (55)	18 (47) 20 (53)	自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。
7	1「はい」 2「いいえ」	23 (61) 15 (39)	24 (63) 14 (37)	投票することで、国の政治に関与したと感じますか。
8	1「はい」 2「いいえ」	33 (87) 5 (13)	33 (87) 5 (13)	あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。
9	1「はい」 2「いいえ」	18 (47) 20 (53)	26 (68) 12 (32)	あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも投票に行きますか。
10	1「はい」 2「いいえ」	22 (58) 16 (42)	27 (71) 11 (29)	あなたは、関心の持てる争点が無い場合でも投票に行きますか。
11	1「はい」 2「いいえ」	6 (16) 32 (84)	9 (24) 29 (76)	あなたには、支持する政党がありますか。
12	1「はい」 2「いいえ」	4 (11) 34 (89)	8 (21) 30 (79)	あなたには、支持する政治家がいますか。
13	1「はい」 2「いいえ」	29 (76) 9 (24)	31 (82) 7 (18)	あなたは選挙のとき、選挙広報や政見放送などを見ますか。
14	1「はい」 2「いいえ」	7 (18) 31 (82)	9 (24) 29 (76)	あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。
15	1「はい」 2「いいえ」	23 (61) 15 (39)	25 (66) 13 (34)	あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。
16	1「候補者の所属政党」 2「候補者個人」 3「一概に言えない」	5 (13) 18 (47) 15 (39)	6 (16) 17 (45) 15 (39)	あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。

◇質問4．～14．に「はい」と答えた回答者の人数．



で、確かにこれらの差は偶然の範囲を出ないだろうとは思われる。しかしながらこれは、（95%の確率で）偶然の可能性を否定できないという意味ではあっても、相関を否定するものではない。幸いこれまでに見てきた結果からある程度の予測は立てられるので、それらを参考にして考えたい。

今回の比較で差が目立つのは、質問4．、質問9．、質問10．、質問12．の4つの質問であり、なかでも質問9．における差は、8人，19%でありとくに目立つ。これらのうち質問4．は調査回による比較で、質問9．は調査回による比較と投票経験の有無による比較で、質問10．は投票経験の有無による比較で、それぞれ有意な差が見られている。しかしながら質問12．については、これまでに有意差を示す結果は得られていない。このことからまず質問12．については、この差は意味の無いものとする。そして質問4．だが、これはすでに見てきたように、投票を経験することに関係する差と考えるべきではないだろう。残る質問9．と質問10．では投票経験の有無による比較でも差が見られており、これらにおける差は、有意でこそなかったが投票参加と関係があると考えても良いのではなかろうか。

＊1：38人中35人が投票機会を持ったことが無いことを考えると、この性別の偏りは年齢によりものと考えて良いだろう。すでに見たように、第1回調査時点における男女間の年齢差は、女性が男性よりも有意に若いのであり、投票機会の有無で分けると、それを持たない98人中、男性35人に対し女性が63人，64%であった。

回答傾向の差が持つ意味

以上から、選挙というものを経験することと有権者の選挙に対する意識とのあいだに見られる関係についてまとめたい。

まず「選挙というものを経験すること」については、投票機会の有無と投票経験の有無との２点しか尋ねていない。この２点、つまり有権者になってから今までに選挙が行われたという者の人数や今までに投票に行ったことがあるという者の人数は、選挙が行われる度に増加する。そして「有権者の選挙に対する意識」については、質問４．～質問16．までの13項目の質問をした。これらのうち、調査回によって差が現れたのは、質問４．，質問７．，質問９．の３質問であった。

◇比較により差の見られた質問(質問4.~15.)

	調査回(2) [N=523]	投票機会 [N=185]	投票経験 [N=157]	投票前後 [N=38]
質問 4.	○	-	-	-
質問 7.	○	-	○	-
質問 8.	-	-	○	-
質問 9.	○	-	○	△*
質問10.	-	-	○	-
質問13.	-	-	○	-
質問15.	-	-	○	-

＊投票前後による比較のみ棄却域10%

ではこれら３質問のなかで、投票機会や投票経験によると思われるものはどれか、ということを考えるために、投票機会を持ったことのある者とない者、投票経験のある者とない者とで、「有権者の選挙に対する意識」がどう違うかを見てみた。この結果、「有権者の選挙に対する意識」は、投票機会の有無よりも投票経験の有無によって違ってくることが分かった。こうした手続きを踏んだうえで、わずか38人ながらも初めて投票を経験した者についてその投票の前後で「有権者の選挙に対する意識」の違いを見てみた。こうした比較の結果をひとつの表にまとめると、上の表のとおりとなる。但し、投票前後による比較においては有意差が見られなかったので、ここでは投票前後による比較についてのみ棄却域を10%まで拡げ、有意となるものを三角で記した。

こうしてみると、投票経験のある者とない者とのあいだで「有権者の選挙に対する意識」は大きく異なることがわかる。こうした意識と投票経験との関係は、基本的にはまず意識の違いがあって、それ故に投票する者と投票しない者がある、と考えることが妥当であろう。しかし比較の結果をみると、質問９．については「選挙というものを経験すること」を経て変化する部分がある、と言い得るのではなかろうか。また同様のことが、確実さは

低くなるが、質問10．についても言えよう。質問10．については、投票経験による比較でこそ有意差が見られたものの、その他の比較ではいずれも有意差は見られなかった。しかしながら、すでに「単純集計」の項で見たように、質問９．と質問10．は非常に同質な質問であった。また質問10．は、有意ではなくとも、調査回による比較や投票前後による比較において差を示していた。こうしたことを考えると、この質問10．については、「はい」という回答者の数が第１回調査時点ですでにある程度多かったために、それ以降の変化が有意にならなかったという考え方ができよう。そしてこの質問９．と質問10．との第１回調査時点における「はい」という回答者数の違いは、ほとんどの場合では選挙で「人」を選ぶ、日本の選挙制度と関係があるのかもしれない。質問９．は「あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも、投票に行きますか。」という質問、質問10．は「あなたは、関心のもてる争点が無い場合でも、投票に行きますか。」という質問であった。両者の比較のうえで言えば、質問９．では「人」を、質問10．では「政策」を重視するかどうかを尋ねていると言える。そして重視する場合は、「いいえ」と答えることになる。質問10．における「はい」という回答者数が、質問９．におけるそれを上回っているのだから、これは「人」重視ということになる。この「人」重視の姿勢は、質問16．においても明確に見られる。

また質問７．は、投票前後による比較では差が見られなかったが、調査回による比較、投票経験による比較において有意差が見られた。この質問は「投票することで、国の政治に関与したと感じますか。」という質問であった。実際に投票をしたことのある者が、そうした経験をもたない者よりも、よりそうした実感を持っているということは非常に自然なことであり、この質問も「選挙というものを経験すること」と関係がある可能性は否定できない。

質問８．については、確かに投票経験の有無による比較において有意差が見られた。しかし３割を切る程度の者しか投票経験を持たない第１回調査の時点で、すでに８割の者がこの「あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。」という質問に「はい」と答えていた。このことから考えると、こうした意識は、主要には有権者になるよりも以前に形成されると考えるべきであろう。むしろ注目すべきは投票を経験したことがない者でさえも、その７割がこの質問に「はい」と回答していることである。

質問13．や質問15．も投票経験の有無による比較で有意差が見られた。そして統計的に有意かどうかを気にしなければ、調査回による比較や投票前後による比較においても一貫して差が見られる。あるいはこれらの質問も、「選挙というものを経験すること」と関係があるのだが、質問10．のように第１回調査時点ですでに回答者の過半が「はい」と答えていたために、大きな解答傾向の差が現れなかったのかもしれない。

そして質問４．についてはすでに見たとおり、投票機会や投票経験ではない質問項目外の理由によるものだと考えてよかろう。

以上を踏まえて今回の一連の調査の結果を結論づけるならば、選挙というもの、そして投票を経験することによって有権者の投票参加志向が強まる、という因果関係は言えるのではなかろうか。具体的には投票前後による比較における質問９．に対する回答の変化である。そしてこの投票参加志向は、その名のとおり投票参加を促す方向に作用する意識である。従ってこの結論が正しいのであれば、少なくとも投票経験の浅いうちは、その世代の投票率は上りこそすれ下がりはしない、ということになる。ある一定の年齢に至まで、年齢とともに投票率が上がるという研究は、数多くあるのであり、この結論もあながち的はずれなものではなかろう[*1]。

＊１：蒲島郁夫によると、投票参加に強い相関を示す政治的関与は「政治参加のコスト感覚」や「政治的義務感」であることは、既に序論で触れた。蒲島はさらに、こうした政治的関与と年齢についても考察している。それによると、「政治参加のコスト感」の低さ、すなわち「投票意向」の高さは、投票率と同様に年齢と共に上昇し、投票率が急激に低下する70歳以降もそれほどの落ち込みは見せないとされる[1)]。

VI．選挙過程における政治的社会化

選挙過程と投票参加志向

以上、支持する政党や候補者の有無、ないし関心のもてる争点の有無にかかわらず、投票に行くと答える者の数が、初めての投票を通じて増加することが観察された。とは言え、初めての投票を通じて投票参加志向が強まる傾向が決して強くはないことに比べると、投票参加志向の強い者が実際に投票をする傾向は顕著であった。また、そもそも投票する機会すら持ったことのない者にも、既に強い投票参加志向を持つ者が少なくなかった。こうしたことを考えると、投票参加志向の弱い者が、他の何らかの動機づけで投票をし、そのことで投票参加志向を強める、という順序には無理があろう。むしろ、何らかの理由で投票参加志向が強まり、その結果として投票をする、という順序の方が解りやすい。

従って、初めての投票そのものを通じて投票参加志向が強まると考えるべきではなかろう。そうではなく、まさにその投票という行為を行うより前の、公示前後からの選挙という、いわばイベントの全過程のなかで、何らかの理由で投票参加志向が強まり、その結果投票をする、というように、投票参加志向を強める要因を投票そのものではなく、選挙という一連の過程全体に求める必要があろう。

投票参加志向と投票義務感

ところで、この投票参加志向を測ることに使ってきた質問９．や質問10．とたいへん似通っていると思われる質問に、質問５．がある。これは、選挙で投票することは有権者の義務であると思うかどうかを尋ねた質問であり、ここで「はい」と回答した者は、支持する候補者や政党、関心のもてる争点が無い場合でも投票に行くと答えるはずである。ところがこの質問５．は、質問９．や質問10．とは有意な相関を示さなかった。このことについては、そもそも質問５．に全体の85％の者が「はい」と答えているのであり、「いいえ」と答えた者は28人、15％しかいないことを原因のひとつと考えることができる。しかしこれだけ回答傾向が明確に示された質問５．であっても、やはり同様に明確な回答傾向の見られた質問12．とのあいだでは有意な相関を示している*1。したがって、質問５．が、質問９．や質問10．と有意な相関を示さない理由は、すでに質問５．自体が明確な回答傾向をもっていることだけに帰することはできない。

蓋しこの質問５．、言うなれば投票義務感と投票参加志向は、具体的な本人の行動と絡めて聞くかどうかという点でその性質を異にしているのではないか。つまり、一般的に言えば投票には行くべきだと考える者も、具体的なケースを示されたうえで、「あなたは、…投票に行きますか」と尋ねられれば話は別だ、ということである。このことは、投票義務感が投票する機会さえ持ったことのない者の間でさえも既に非常に高いレベルにあることに比べて、投票参加志向の方は、それよりも低い水準から上昇方向に変化を見せることとも矛盾しない。

選挙に対するリアリティ

そして投票参加志向の上昇に、初めて投票することになる選挙の一連の過程が影響する。選挙の一連の過程と言っても、実際に投票参加志向に影響を与え得るには、その選挙が実際に投票を行う選挙である必要がある。これは投票機会の有無は投票参加志向と相関を示さないことから言える。では、実際に投票することになる時とそうでない時とでは、該投票者にとっての選挙認知にはどういう違いがあるのであろう。

投票参加志向が相関を示す他の質問に、質問７．がある。これは言わば選挙を通じての国政に対する政治的有力感であるが、

◇質問間の相関（質問９．，質問10．）

	質問９．	質問10．
質問１．	－	－
質問２．	.1542*	－
質問３．	－	－
質問ａ．	－	－
質問ｂ．	.1837*	－
質問４．	－	－
質問５．	－	－
質問６．	－	.1704*
質問７．	.1755*	.2877***
質問８．	.3163***	.4369***
質問９．		.5606***
質問10．	.5606***	
質問11．	－	－
質問12．	－	－
質問13．	－	－
質問14．	.1937**	.2452***
質問15．	－	.1622*
質問16．	－	－

質問間の相関は、質問９．，質問10．と他の全質問との相関を、φ係数で表したものである。相関が有意でなかったもの（p>.05）については、数字を挿入していない。確率については以下のとおり[*2]。

*　：p＜ .05

**　：p＜ .01

***：p＜ .001

これは投票を通じて自分と国政とのあいだに接点を持つと感じ得るかということであり、この質問に対する肯定・否定が、「有権者としての自分」―「選挙」―「国政」という関係にリアリティを感じ得るか否かと強く結びつきを持つであろうと考えることは妥当と思われる。そしてこの政治的有力感、「有権者としての自分」―「選挙」―「国政」という関係に対するリアリティは、投票経験とも有意な相関を示す*3。

こうしたことから、投票しない選挙が投票参加志向に影響しない一方で、投票する選挙が投票参加志向に影響する理由は、実際に投票に行くことになる選挙は、該投票者にとって体験することのできる現実であり、リアリティを帯びるからであると考えられる。このリアリティは、一般論に過ぎない投票義務感ではない、より行動に結び付き易い投票参加志向を有権者に形成し得る。そして選挙の一連の過程が、このリアリティを有権者に形成し、有権者の投票参加志向を強めたことが、今回の一連の調査から読み取れる政治的社会化の一過程ではなかろうか。

＊１：質問５．と質問12．とは、有意な相関を示す。

◇質問５．「選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。」

質問12．「あなたには、支持する政治家がいますか。」

質問５．／質問１２．	全体	「はい」	「いいえ」
全　体	185(100)	157(85)	28(15)
「はい」	24(100)	24(100)	0(0)
「いいえ」	161(100)	133(83)	28(17)

尚、（　）内は横パーセント

＊２：質問２．と質問９．との相関係数については、次式によって求めた。

$$C = \sqrt{\chi^2 / \{N \times \max(r-1,\ c-1)\}}$$

尚、ｒ，ｃは変数のカテゴリー数、$\max(r-1,\ c-1)$はｒ－１とｃ－１の大きい方をとるの意。ここでは、質問２．のカテゴリーは、20歳・21歳・22歳以上の３つとした。

＊３：質問ｂ．と質問７．とは、有意な相関を示す。

◇質問７．「投票することで、国の政治に関与したと感じますか。」

質問ｂ．「あなたは選挙で投票したことがありますか。」

質問7． 質問b．	全体	「はい」	「いいえ」
全　体	185(100)	93(50)	92(50)
「はい」	51(100)	34(67)	17(33)
「いいえ」	134(100)	59(44)	75(56)

尚、（　）内は横パーセント

Ⅶ．跋文

調査を終えて

こうして調査結果を眺めてみて、あらためて思い知らされたのは、調査設計の大切さであり、調査は１回きりで終わるものではないということであった。

そもそも「選挙というものを経験することが有権者の選挙に対する意識にどのような影響を与えるのか」ということについて考えようと思ったのは、たまたま在学中に亥年が来ることに気付いたからであった。１年のうちに統一地方選挙と参議院選挙が両方とも行われる年というのは12年に１回しか来ないのだから、このチャンスを活かす手はないものか、と考えたわけである。

ところがこの時点では、すでにあるものとしての政治意識については考えたことがあったものの、政治的社会化ということについては、あまり気に留めていなかったのである。こうして政治的社会化について見ようとしながらも、そのエイジェントを見つける手懸りになる質問を含まない質問票が出来上がった。これは調査設計にあたっての準備不足といえる。しかし他方では、それ故に、電話調査に耐え得るシンプルな調査票になった面もある。また、これだけシンプルな質問票であってもそれなりの結果を導けたのは、事前のフリートークによる聴取り調査やプリテストの実施という、調査設計にあたっての一連の手続きを踏んだことがあるだろう。

しかしながら、それ以上にこの調査を意味あるものにしたのは、追跡調査の採用であった。比較対象があったからこそ、数字が意味を持った。逆にまた、追跡調査をしてみて、その問題点にも気付いた。それは、繰り返して行われる調査そのものが、対象者の意識に影響を及ぼしてしまうことである。例えば、電話がつながって「埼玉大学の出口ですが…」と言うや否や、「あっ、調査ですね。選挙行きましたよ。」という言葉が返ってきたこともあった。

ともあれ、今回の一連の調査並びにそれらに対するわずかながらの考察に、一応の区切りをつけた。こうしてまがりなりにも一つの結論を示してはみたが、その過程では次々と新たな疑問が浮かんだ。しかしながら、蓋し、それが「選挙の一連の過程」という曖昧なものであっても、成人以降の政治的関与の上昇を、「加齢」という、さらに漠然とした理

由づけから一歩具体化したことは、決して無駄ではない。もちろんこれが的を得た論であるのかどうかは判らない。しかし、この結果を踏まえてこそ、次のステップに進める。選挙がきっかけとなって投票参加志向が強まり、投票する。では投票参加志向の強化を促すものは、「選挙の一連の過程」のうちの、いったい何であるのか。例えばこの様に。

いずれにせよ、自ら実施して得たこの一連の調査の結果は、手元にある。この調査結果は、以降も様々に切り込むことで、さらに多くのことを示唆してくれよう。この貴重な財産と経験を私に与えてくれた調査対象者の方々にはくれぐれも感謝したい。また、深澤建次、松本正生両先生には、卒論指導のみならず、様々な面で御世話になってきた。両先生の御陰なくしては、この卒論はおろか、この程度の考察さえも成し得る能力は持ち得なかったであろう。この場を借りて、両先生に感謝の意を表したい。

１９９７年　２月

教養学部教養学科
現代社会学コース
12100 出口慎二

引用文献・参考文献

１）　蒲島郁夫『政治参加』(1988)東京大学出版会
２）　飽戸弘『政治行動の社会心理学』(1994)福村出版
３）　三宅一郎『投票行動』(1989)東京大学出版会
４）　濱口恵俊「人柄はどのように形づくられるか」，大橋正夫・佐々木薫編『社会心理学を学ぶ［新版］』(1989)有斐閣

飽戸弘『社会調査ハンドブック』(1987)日本経済新聞社
阿部斉『概説　現代政治の理論』(1991)東京大学出版会
池田央（編）『心理測定法』(1993)放送大学教育振興会
岩原信九郎『新しい教育・心理統計　ノンパラメトリック法』(1970)日本文化科学社

杉山明子『社会調査の基本』現代人の統計３(1984)朝倉書店

高畠通敏・関寛治（編）『政治学』(1978)有斐閣

ダレル・ハフ（高木秀玄訳）『統計でウソをつく法』(1968)講談社

内閣総理大臣官房広報室編『世論調査年間』平成５年度版(1994)大蔵省印刷局

林知己夫『調査の科学』(1984)講談社

林知己夫『日本人研究三十年』(1981)至誠堂

福田歓一『近代民主主義とその展望』(1977)岩波書店

宝月誠・中道實・田中滋・中野正大『社会調査』(1989)有斐閣

盛山和夫・近藤博之・岩永雅也『社会調査法』(1992)放送大学教育振興会

松本正生『世論調査と政党支持』(1991)法政大学出版会

松本正生「世論調査の比較検討」『社会科学論集』第87号抜刷(1996)埼玉大学経済学会

Ⅷ. 資料編

単純集計

― 第１回調査単純集計 ―

政治への関心についての調査

（3.8-22　埼玉大学教養学部1992-3年入学者　281　185(65.8%) 全数　電話法）

このたび卒業論文の作成にあたりまして、「政治への関心についての調査」と題します意識調査をおこなっております。質問内容は、主に選挙に関するあなた自身の考えを伺うものでして、全部で18問、時間にして３分程度のものです。もしよろしければ、ご協力お願いできませんでしょうか。

以下の質問について、とくに指示のあるものの他は、「はい」か「いいえ」でお答えください。それではよろしくお願いします。

Ⅰ．まず初めに、あなた自身のことについてお聞きします。

１．あなたは男性ですか、女性ですか。*1

１．男性　　91 (49%)

２．女性　　94 (51%)

２．年齢はおいくつですか。*2

（　　）歳　　20歳　54 (29%)

21歳　91 (49%)

22歳　34 (18%)

23歳　2 (1%)

24歳　3 (2%)

25歳　0 (0%)

26歳　1 (1%)

３．あなたには、今住んでいる所に選挙権がありますか。

１．はい　　132 (71%)

２．いいえ　　53 (29%)

ａ．あなたが選挙権を持ってから、今までに選挙がありましたか。*3

１．はい　　87 (47%)

２．いいえ　　98 (53%)

ｂ．あなたは選挙で投票したことがありますか。

１．はい　　51 (28%)

２．いいえ　　134 (72%)

Ⅱ．選挙について、あなたの考えをお聞きします。

４．選挙結果は、国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。

１．はい　　100 (54%)

２．いいえ　　85 (46%)

5．選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。

1．はい　157 (85%)

2．いいえ　28 (15%)

Ⅲ．選挙権の行使について、あなたの考えをお聞きします。

6．自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。

1．はい　83 (45%)

2．いいえ　102 (55%)

7．投票することで、国の政治に関与したと感じますか。

1．はい　93 (50%)

2．いいえ　92 (50%)

8．あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。

1．はい　152 (82%)

2．いいえ　33 (18%)

Ⅳ．棄権について、あなたの考えをお聞きします。

9．あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも、投票に行きますか。

1．はい　85 (46%)

2．いいえ　100 (54%)

10．あなたは、関心のもてる争点が無い場合でも、投票に行きますか。

1．はい　103 (56%)

2．いいえ　82 (44%)

Ⅴ．支持する政党や政治家の有無についてお聞きします。

11．あなたには、支持する政党がありますか。

1．はい　25 (14%)

2．いいえ　160 (86%)

12．あなたには、支持する政治家がいますか。

1．はい　24 (13%)

2．いいえ　161 (87%)

Ⅵ．選挙に対する関心についてお聞きします。

13．あなたは選挙の時、選挙広報や政見放送などを見ますか。

1．はい　122 (66%)

2．いいえ　63 (34%)

14．あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。

1．はい　33 (18%)

2．いいえ　152 (82%)

15．あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。

1．はい　98 (53%)

2．いいえ　87 (47%)

Ⅶ．最後に投票態度の決定についてお聞きします。

16．あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。1·2·3 からひとつ選んで番号で答えてください。

１．候補者の所属政党を重視する。	24 (13%)
２．候補者個人を重視する。	87 (47%)
３．一概に言えない。	74 (40%)

以上になります。なおこの調査につきましては、今年の６月、そして７月の終り頃と、もう２回ほどご協力をお願いすることになると思いますが、その際もぜひご協力をお願いします。最後までご協力ありがとうございました。

＊１：性別は、調査対象者の多くについて事前に確認できていたことに加え、電話が繋がった時点で、本人の確認をする際に声と名前から判断することもできたため、実際に質問したケースはほとんどない。以降の調査についても同様。

＊２：実際には19歳の者もいたが、僅かに１名であり、質問のなかには調査対象者が有権者であることを前提としているものが多いため、集計の際には除外した。

＊３：選挙の有無について、「覚えていない」・「わからない」と答えた者には、「…選挙が行われた記憶はありますか」と、さらに尋ねて解答を得た。質問ｂ．についても同様。

— 第２回調査単純集計 —

政治への関心についての調査

（6.12-24 埼玉大学教養学部1992-3年入学者　272　183(67.3%) 全数　電話法）

このたび卒業論文の作成にあたりまして、『政治への関心についての調査』と題します意識調査をおこなっております。質問内容は、主に選挙に関するあなた自身の考えを伺うものでして、全部で21問、時間にして３分程度のものです。もしよろしければ、ご協力お願いできませんでしょうか。

以下の質問について、とくに指示のあるものの他は、「はい」か「いいえ」でお答えください。それではよろしくお願いします。

Ⅰ．まず初めに、あなた自身のことについてお聞きします。

１．あなたは男性ですか、女性ですか。

１．男性　　87 (48%)

２．女性　　96 (52%)

２．年齢はおいくつですか。

（　　）歳　　20歳　43 (23%)

21歳　77 (42%)

22歳　45 (25%)

23歳　15 (8%)

24歳　 2 (1%)

25歳　 0 (0%)

26歳　 1 (1%)

３．あなたには、今住んでいる所に選挙権がありますか。

１．はい　　141(77%)

２．いいえ　　42(23%)

Ⅱ．４月に行われた統一地方選挙についてお聞きします。*1

ａ．あなたが選挙権を持つ地方自治体では、都道府県知事ないしは都道府県議会議員の選挙が行われましたか。

１．はい　　144(79%)

２．いいえ　　39(21%)

ｂ．あなたは投票に行きましたか。

１．はい　　61(33%)

２．いいえ　　122(67%)

ｃ．それでは、市区町村長ないしは市区町村議会議員の選挙は行われましたか。

１．はい　　127(69%)

２．いいえ　　56(31%)

ｄ．あなたは投票に行きましたか。

１．はい　　50(27%)

２．いいえ　　133(73%)

Ⅲ．７月に行われる予定の参議院選挙についてお聞きします。

ｅ．あなたは、今度の参議院選挙に行きますか。1·2·3 からひとつ選んで番号で答えてください。

１．かならず行く　39(21%)

２．できれば行きたい　117(64%)

３．行かない　27(15%)

Ⅳ．選挙について、あなたの考えをお聞きします。

４．選挙結果は、国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。

１．はい　128(70%)

２．いいえ　55(30%)

５．選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。

１．はい　152(83%)

２．いいえ　31(17%)

Ⅴ．選挙権の行使について、あなたの考えをお聞きします。

６．自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。

１．はい　88(48%)

２．いいえ　95(52%)

７．投票することで、国の政治に関与したと感じますか。

１．はい　101(55%)

２．いいえ　82(45%)

８．あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。

１．はい　153(84%)

２．いいえ　30(16%)

Ⅵ．棄権について、あなたの考えをお聞きします。

９．あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも、投票に行きますか。

１．はい　103(56%)

２．いいえ　80(44%)

10．あなたは、関心のもてる争点が無い場合でも、投票に行きますか。

１．はい　113(62%)

２．いいえ　70(38%)

Ⅶ．支持する政党や政治家の有無についてお聞きします。

11．あなたには、支持する政党がありますか。

１．はい　25(14%)

２．いいえ　158(86%)

12．あなたには、支持する政治家がいますか。

１．はい　29(16%)

２．いいえ　154(84%)

Ⅶ. 選挙に対する関心についてお聞きします。

13. あなたは選挙の時、選挙広報や政見放送などを見ますか。

1．はい　118(64%)

2．いいえ　65(36%)

14. あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。

1．はい　36(20%)

2．いいえ　147(80%)

15. あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。

1．はい　107(58%)

2．いいえ　76(42%)

Ⅸ. 最後に投票態度の決定についてお聞きします。

16. あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。1·2·3 からひとつ選んで番号で答えてください。

1．候補者の所属政党を重視する。　15(8%)

2．候補者個人を重視する。　74(40%)

3．一概に言えない。　94(51%)

以上になります。なおこの調査につきましては、参議院選挙のすぐあとにもう一回、ご協力をお願いすることになると思いますが、その際もぜひご協力をお願いします。最後までご協力ありがとうございました。

＊1：選挙の有無について、「覚えていない」・「わからない」と答えた者には、「実際に行われたかどうかは別として、選挙が行われた記憶はありますか」と、さらに尋ねて回答を得た。

— 第３回調査単純集計 —

政治への関心についての調査

（7.24-31 埼玉大学教養学部1992-3年入学者　206　155(75.2%) 有意抽出法　電話法）

このたび卒業論文の作成にあたりまして、『政治への関心についての調査』と題します意識調査をおこなっております。質問内容は、主に選挙に関するあなた自身の考えを伺うものでして、全部で17問、時間にして３分程度のものです。もしよろしければ、ご協力お願いできませんでしょうか。

以下の質問について、とくに指示のあるものの他は、「はい」か「いいえ」でお答えください。それではよろしくお願いします。

Ⅰ．まず初めに、あなた自身のことについてお聞きします。

１．あなたは男性ですか、女性ですか。

１．男性	71 (46%)
２．女性	84 (54%)

２．年齢はおいくつですか。

（　　）歳	20歳	27 (17%)
	21歳	64 (41%)
	22歳	45 (29%)
	23歳	17 (11%)
	24歳	2 (1%)

３．あなたには、今住んでいる所に選挙権がありますか。

１．はい	122 (79%)
２．いいえ	33 (21%)

Ⅱ．７月23日に行われた参議院選挙についてお聞きします。

ａ．あなたは投票に行きましたか。

１．はい	81 (52%)
２．いいえ	74 (48%)

Ⅲ．選挙について、あなたの考えをお聞きします。

４．選挙結果は、国の政策の決定に影響を及ぼしていると思いますか。

１．はい	111 (72%)
２．いいえ	44 (28%)

５．選挙で投票することは、有権者の義務だと思いますか。

１．はい	129 (83%)
２．いいえ	26 (17%)

Ⅳ．選挙権の行使について、あなたの考えをお聞きします。

６．自分の一票は、候補者の当落を左右すると思いますか。

１．はい	74 (48%)
２．いいえ	81 (52%)

7．投票することで、国の政治に関与したと感じますか。

1．はい　100 (65%)

2．いいえ　55 (35%)

8．あなたは、自分にとって選挙権は必要だと思いますか。

1．はい　133 (86%)

2．いいえ　22 (14%)

Ⅴ．棄権について、あなたの考えをお聞きします。

9．あなたは、支持する政党や候補者のない場合でも、投票に行きますか。

1．はい　94 (61%)

2．いいえ　61 (39%)

10．あなたは、関心のもてる争点が無い場合でも、投票に行きますか。

1．はい　99 (64%)

2．いいえ　56 (36%)

Ⅵ．支持する政党や政治家の有無についてお聞きします。

11．あなたには、支持する政党がありますか。

1．はい　26 (17%)

2．いいえ　129 (83%)

12．あなたには、支持する政治家がいますか。

1．はい　20 (13%)

2．いいえ　135 (87%)

Ⅶ．選挙に対する関心についてお聞きします。

13．あなたは選挙の時、選挙広報や政見放送などを見ますか。

1．はい　110 (71%)

2．いいえ　45 (29%)

14．あなたは日頃、あなたの選挙区の議員の仕事ぶりに注目していますか。

1．はい　33 (21%)

2．いいえ　122 (79%)

15．あなたは日頃、意識して政治の動きに注意を払っていますか。

1．はい　94 (61%)

2．いいえ　61 (39%)

Ⅷ．最後に投票態度の決定についてお聞きします。

16．あなたは、どの候補者に投票するかを決める際、その所属政党を重視しますか、それとも候補者個人を重視しますか。1·2·3 からひとつ選んで番号で答えてください。

1．候補者の所属政党を重視する。　20 (13%)

2．候補者個人を重視する。　59 (38%)

3．一概に言えない。　76 (49%)

以上になります。3度にわたりご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

地方選挙カレンダー(1995.1.～ 8.)［朝日新聞「地方選挙メモ」より作成］

（＊：無投票）

1.15.	京都府	亀岡市長選
		長岡京市長選
	＊愛媛県	伊予市長選
		東伊予市長選
	＊長崎県	松浦市長選
	鹿児島県	垂水市長選
	＊	串木野市長選
22.	山形県知事選	
	愛媛県知事選	
	青森県	三沢市長選
	岩手県	一関市長選
	＊埼玉県	深谷市長選
	千葉県	我孫子市長選
		富津市長選
	石川県	加賀市長選
	兵庫県	赤穂市長選
	＊	宝塚市長選
	福岡県	大牟田市長選
29.	＊岩手県	陸前高田市長選
	秋田県	本荘市長選
	茨城県	結城市長選
	＊栃木県	黒磯市長選
	＊愛知県	安城市長選
	三重県	桑名市長選
	滋賀県	守山市長選
	岡山県	岡山市長選
	福岡県	久留米市長
		筑紫野市長選
	長崎県	平戸市長選
	東京都	太田区長選
2. 5.	青森県知事選	
	愛知県知事選	
	熊本県知事選	
	広島県	広島市長選
	福岡県	北九州市長選
	＊千葉県	勝浦市長選
	愛知県	春日井市長選
	佐賀県	佐賀市長選
	＊大分県	豊後高田市長選
12.	＊岩手県	江刺市長選
	神奈川県	厚木市長選
	京都府	舞鶴市長選
	高知県	土佐市長選
	＊佐賀県	鳥栖市長選
19.	新潟県	新津市長選
	大阪府	高石市長選
	岡山県	倉敷市長選
26.	愛知県	小牧市長選
	滋賀県	草津市長選
3.19.	茨城県	古河市長選

26.	奈良県	大和高田市長選
4. 9. 23.	統一地方選	
5.21.	群馬県	太田市長選
	＊島根県	平田市長選
28.	鹿児島県	出水市長選
6. 4.	福島県	会津若松市長選
	千葉県	市原市長選
	香川県	観音寺市長選
18.	茨城県	北茨城市長選
25.	＊山形県	上山市長選
	＊愛知県	日進市長選
7. 2.	富山県	新湊市長選
	岐阜県	美濃市長選
	愛知県	刈谷市長選
	兵庫県	明石市長選
	＊	三田市長選
9.	宮崎県知事選	
	岐阜県	瑞浪市長選
23.	群馬県知事選	
	福岡県	前原市長選
30.	＊大阪府	富田林市長選
	広島県	福山市長選
	大分県	日田市長選
8. 6.	山形県	大月市長選
	静岡県	焼津市長選
	大分県	臼杵市長選
27.	岩手県	盛岡市長選
	神奈川県	海老名市長選

＜ '95　統一地方選挙＞

●日程

	告示	投票
知事	3.23	
政令指定市長	3.26	4. 9
道府県議，政令指定市議	3.31	
一般の市長・市議，東京の区長・区議	4.16	4.23
町村長，町村議	4.18	

●選挙件数

知事選	13都道府県
政令指定市長選	1政令指定市
道府県議選	43道府県
政令指定市議選	10政令指定市
市長選	117市
区長選	15区
市議選	383市
区議選	22区
町村長選	612町村
町村議選	1,268町村

●統一率

統一率	37.8%(2,484件)

第1回調査クロス表 －1

	単純集計	1		2			3		a	
		①	②	①	②	③	①	②	①	②
1①	91(49)			22(41)	39(43)	30(75)	60(45)	31(58)	56(64)	35(36)
②	94(51)			32(59)	52(57)	10(25)	72(55)	22(42)	31(36)	63(64)
20	54(29)	22(24)	32(34)				33(25)	21(40)	5(6)	49(50)
21	91(49)	39(43)	52(55)				66(50)	25(47)	45(52)	46(47)
2 22	34(18)	24(26)	10(11)				28(21)	6(11)	31(36)	3(3)
23	2(1)	2(2)	0(0)				2(2)	0(0)	2(2)	0(0)
24	3(2)	3(3)	0(0)				3(2)	0(0)	3(3)	0(0)
25	0(0)	0(0)	0(0)				0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
26	1(1)	1(1)	0(0)				0(0)	1(2)	1(1)	0(0)
3①	132(71)	60(66)	72(77)	33(61)	66(73)	33(83)			64(74)	68(69)
②	53(29)	31(34)	22(23)	21(39)	25(27)	7(18)			23(26)	30(31)
a①	87(47)	56(62)	31(33)	5(9)	45(49)	37(93)	64(48)	23(43)		
②	98(53)	35(38)	63(67)	49(91)	46(51)	3(8)	68(52)	30(57)		
b①	51(28)	33(36)	18(19)	1(2)	24(26)	26(65)	43(33)	8(15)	51(59)	0(0)
②	134(72)	58(64)	76(81)	53(98)	67(74)	14(35)	89(67)	45(85)	36(41)	98(100)
4①	100(54)	53(58)	47(50)	29(54)	50(55)	21(53)	68(52)	32(60)	47(54)	53(54)
②	85(46)	38(42)	47(50)	25(46)	41(45)	19(48)	64(48)	21(40)	40(46)	45(46)
5①	157(85)	72(79)	85(90)	48(89)	77(85)	32(80)	112(85)	45(85)	73(84)	84(86)
②	28(15)	19(21)	9(10)	6(11)	14(15)	8(20)	20(15)	8(15)	14(16)	14(14)
6①	83(45)	43(47)	40(43)	22(41)	43(47)	18(45)	59(45)	24(45)	36(41)	47(48)
②	102(55)	48(53)	54(57)	32(59)	48(53)	22(55)	73(55)	29(55)	51(59)	51(52)
7①	93(50)	45(49)	48(51)	22(41)	49(54)	22(55)	73(55)	20(38)	42(48)	51(52)
②	92(50)	46(51)	46(49)	32(59)	42(46)	18(45)	59(45)	33(62)	45(52)	47(48)
8①	152(82)	76(84)	76(81)	37(69)	78(86)	37(93)	109(83)	43(81)	76(87)	76(78)
②	33(18)	15(16)	18(19)	17(31)	13(14)	3(8)	23(17)	10(19)	11(13)	22(22)
9①	85(46)	39(43)	46(49)	16(30)	50(55)	19(48)	63(48)	22(42)	41(47)	44(45)
②	100(54)	52(57)	48(51)	38(70)	41(45)	21(53)	69(52)	31(58)	46(53)	54(55)
10①	103(56)	48(53)	55(59)	26(48)	53(58)	24(60)	76(58)	27(51)	46(53)	57(58)
②	82(44)	43(47)	39(41)	28(52)	38(42)	16(40)	56(42)	26(49)	41(47)	41(42)
11①	25(14)	16(18)	9(10)	7(13)	10(11)	8(20)	21(16)	4(8)	14(16)	11(11)
②	160(86)	75(82)	85(90)	47(87)	81(89)	32(80)	111(84)	49(92)	73(84)	87(89)
12①	24(13)	14(15)	10(11)	8(15)	11(12)	5(13)	18(14)	6(11)	12(14)	12(12)
②	161(87)	77(85)	84(89)	46(85)	80(88)	35(88)	114(86)	47(89)	75(86)	86(88)
13①	122(66)	66(73)	56(60)	29(54)	66(73)	27(68)	93(70)	29(55)	61(70)	61(62)
②	63(34)	25(27)	38(40)	25(46)	25(27)	13(33)	39(30)	24(45)	26(30)	37(38)
14①	33(18)	17(19)	16(17)	7(13)	19(21)	7(18)	24(18)	9(17)	18(21)	15(15)
②	152(82)	74(81)	78(83)	47(87)	72(79)	33(83)	108(82)	44(83)	69(79)	83(85)
15①	98(53)	53(58)	45(48)	24(44)	50(55)	24(60)	72(55)	26(49)	49(56)	49(50)
②	87(47)	38(42)	49(52)	30(56)	41(45)	16(40)	60(45)	27(51)	38(44)	49(50)
①	24(13)	13(14)	11(12)	7(13)	8(9)	9(23)	18(14)	6(11)	14(16)	10(10)
16②	87(47)	41(45)	46(49)	24(45)	46(51)	17(43)	58(44)	29(55)	45(52)	42(43)
③	74(40)	37(41)	37(39)	23(43)	37(41)	14(35)	56(42)	18(34)	28(32)	46(47)
2年	80(43)	42(46)	38(40)	53(98)	21(23)	6(15)	49(37)	31(58)	20(23)	60(61)
3年	105(57)	49(54)	56(60)	1(2)	70(77)	34(85)	83(63)	22(42)	67(77)	38(39)
N=185		n=91	n=94	n=54	n=91	n=40	n=132	n=53	n=87	n=98

第１回調査クロス表　－２

	b		4		5		6		7	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
1①	33(65)	58(43)	53(53)	38(45)	72(46)	19(68)	43(52)	48(47)	45(48)	46(50)
②	18(35)	76(57)	47(47)	47(55)	85(54)	9(32)	40(48)	54(53)	48(52)	46(50)
20	1(2)	53(40)	29(29)	25(29)	48(31)	6(21)	22(27)	32(31)	22(24)	32(35)
21	24(47)	67(50)	50(50)	41(48)	77(49)	14(50)	43(52)	48(47)	49(53)	42(46)
2 22	21(41)	13(10)	19(19)	15(18)	28(18)	6(21)	14(17)	20(20)	19(20)	15(16)
23	2(4)	0(0)	0(0)	2(2)	2(1)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	2(2)
24	2(4)	1(1)	2(2)	1(1)	2(1)	1(4)	1(1)	2(2)	2(2)	1(1)
25	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
26	1(2)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	1(4)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)
3①	43(84)	89(66)	68(68)	64(75)	112(71)	20(71)	59(71)	73(72)	73(78)	59(64)
②	8(16)	45(34)	32(32)	21(25)	45(29)	8(29)	24(29)	29(28)	20(22)	33(36)
a①	51(100)	36(27)	47(47)	40(47)	73(46)	14(50)	36(43)	51(50)	42(45)	45(49)
②	0(0)	98(73)	53(53)	45(53)	84(54)	14(50)	47(57)	51(50)	51(55)	47(51)
b①			28(28)	23(27)	45(29)	6(21)	24(29)	27(26)	34(37)	17(18)
②			72(72)	62(73)	112(71)	22(79)	59(71)	75(74)	59(63)	75(82)
4①	28(55)	72(54)			83(53)	17(61)	55(66)	45(44)	61(66)	39(42)
②	23(45)	62(46)			74(47)	11(39)	28(34)	57(56)	32(34)	53(58)
5①	45(88)	112(84)	83(83)	74(87)			68(82)	89(87)	80(86)	77(84)
②	6(12)	22(16)	17(17)	11(13)			15(18)	13(13)	13(14)	15(16)
6①	24(47)	59(44)	55(55)	28(33)	68(43)	15(54)			56(60)	27(29)
②	27(53)	75(56)	45(45)	57(67)	89(57)	13(46)			37(40)	65(71)
7①	34(67)	59(44)	61(61)	32(38)	80(51)	13(46)	56(67)	37(36)		
②	17(33)	75(56)	39(39)	53(62)	77(49)	15(54)	27(33)	65(64)		
8①	49(96)	103(77)	88(88)	64(75)	129(82)	23(82)	77(93)	75(74)	90(97)	62(67)
②	2(4)	31(23)	12(12)	21(25)	28(18)	5(18)	6(7)	27(26)	3(3)	30(33)
9①	31(61)	54(40)	44(44)	41(48)	74(47)	11(39)	38(46)	47(46)	50(54)	35(38)
②	20(39)	80(60)	56(56)	44(52)	83(53)	17(61)	45(54)	55(54)	43(46)	57(62)
10①	34(67)	69(51)	59(59)	44(52)	92(59)	11(39)	54(65)	49(48)	65(70)	38(41)
②	17(33)	65(49)	41(41)	41(48)	65(41)	17(61)	29(35)	53(52)	28(30)	54(59)
11①	9(18)	16(12)	16(16)	9(11)	24(15)	1(4)	9(11)	16(16)	15(16)	10(11)
②	42(82)	118(88)	84(84)	76(89)	133(85)	27(96)	74(89)	86(84)	78(84)	82(89)
12①	10(20)	14(10)	15(15)	9(11)	24(15)	0(0)	14(17)	10(10)	11(12)	13(14)
②	41(80)	120(90)	85(85)	76(89)	133(85)	28(100)	69(83)	92(90)	82(88)	79(86)
13①	42(82)	80(60)	71(71)	51(60)	100(64)	22(79)	59(71)	63(62)	65(70)	57(62)
②	9(18)	54(40)	29(29)	34(40)	57(36)	6(21)	24(29)	39(38)	28(30)	35(38)
14①	16(31)	17(13)	19(19)	14(16)	32(20)	1(4)	18(22)	15(15)	25(27)	8(9)
②	35(69)	117(87)	81(81)	71(84)	125(80)	27(96)	65(78)	87(85)	68(73)	84(91)
15①	34(67)	64(48)	50(50)	48(56)	80(51)	18(64)	54(65)	44(43)	62(67)	36(39)
②	17(33)	70(52)	50(50)	37(44)	77(49)	10(36)	29(35)	58(57)	31(33)	56(61)
①	9(18)	15(11)	14(14)	10(12)	23(15)	1(4)	14(17)	10(10)	17(18)	7(8)
16②	22(43)	65(49)	40(40)	47(55)	72(46)	15(54)	38(46)	49(48)	36(39)	51(55)
③	20(39)	54(40)	46(46)	28(33)	62(39)	12(43)	31(37)	43(42)	40(43)	34(37)
2年	9(18)	71(53)	45(45)	35(41)	68(43)	12(43)	36(43)	44(43)	36(39)	44(48)
3年	42(82)	63(47)	55(55)	50(59)	89(57)	16(57)	47(57)	58(57)	57(61)	48(52)
	n=51	n=134	n=100	n=85	n=157	n=28	n=83	n=102	n=93	n=92

第１回調査クロス表　－３

	8		9		10		11		12	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
1①	76(50)	15(45)	39(46)	52(52)	48(47)	43(52)	16(64)	75(47)	14(58)	77(48)
②	76(50)	18(55)	46(54)	48(48)	55(53)	39(48)	9(36)	85(53)	10(42)	84(52)
20	37(24)	17(52)	16(19)	38(38)	26(25)	28(34)	7(28)	47(29)	8(33)	46(29)
21	78(51)	13(39)	50(59)	41(41)	53(51)	38(46)	10(40)	81(51)	11(46)	80(50)
2 22	32(21)	2(6)	17(20)	17(17)	20(19)	14(17)	8(32)	26(16)	5(21)	29(18)
23	2(1)	0(0)	2(2)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	2(1)	0(0)	2(1)
24	2(1)	1(3)	0(0)	3(3)	2(2)	1(1)	0(0)	3(2)	0(0)	3(2)
25	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
26	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	1(1)
3①	109(72)	23(70)	63(74)	69(69)	76(74)	56(68)	21(84)	111(69)	18(75)	114(71)
②	43(28)	10(30)	22(26)	31(31)	27(26)	26(32)	4(16)	49(31)	6(25)	47(29)
a①	76(50)	11(33)	41(48)	46(46)	46(45)	41(50)	14(56)	73(46)	12(50)	75(47)
②	76(50)	22(67)	44(52)	54(54)	57(55)	41(50)	11(44)	87(54)	12(50)	86(53)
b①	49(32)	2(6)	31(36)	20(20)	34(33)	17(21)	9(36)	42(26)	10(42)	41(25)
②	103(68)	31(94)	54(64)	80(80)	69(67)	65(79)	16(64)	118(74)	14(58)	120(75)
4①	88(58)	12(36)	44(52)	56(56)	59(57)	41(50)	16(64)	84(53)	15(63)	85(53)
②	64(42)	21(64)	41(48)	44(44)	44(43)	41(50)	9(36)	76(48)	9(38)	76(47)
5①	129(85)	28(85)	74(87)	83(83)	92(89)	65(79)	24(96)	133(83)	24(100)	133(83)
②	23(15)	5(15)	11(13)	17(17)	11(11)	17(21)	1(4)	27(17)	0(0)	28(17)
6①	77(51)	6(18)	38(45)	45(45)	54(52)	29(35)	9(36)	74(46)	14(58)	69(43)
②	75(49)	27(82)	47(55)	55(55)	49(48)	53(65)	16(64)	86(54)	10(42)	92(57)
7①	90(59)	3(9)	50(59)	43(43)	65(63)	28(34)	15(60)	78(49)	11(46)	82(51)
②	62(41)	30(91)	35(41)	57(57)	38(37)	54(66)	10(40)	82(51)	13(54)	79(49)
8①			81(95)	71(71)	100(97)	52(63)	22(88)	130(81)	23(96)	129(80)
②			4(5)	29(29)	3(3)	30(37)	3(12)	30(19)	1(4)	32(20)
9①	81(53)	4(12)			73(71)	12(15)	10(40)	75(47)	12(50)	73(45)
②	71(47)	29(88)			30(29)	70(85)	15(60)	85(53)	12(50)	88(55)
10①	100(66)	3(9)	73(86)	30(30)			14(56)	89(56)	15(63)	88(55)
②	52(34)	30(91)	12(14)	70(70)			11(44)	71(44)	9(38)	73(45)
11①	22(14)	3(9)	10(12)	15(15)	14(14)	11(13)			14(58)	11(7)
②	130(86)	30(91)	75(88)	85(85)	89(86)	71(87)			10(42)	150(93)
12①	23(15)	1(3)	12(14)	12(12)	15(15)	9(11)	14(56)	10(6)		
②	129(85)	32(97)	73(86)	88(88)	88(85)	73(89)	11(44)	150(94)		
13①	106(70)	16(48)	62(73)	60(60)	74(72)	48(59)	19(76)	103(64)	20(83)	102(63)
②	46(30)	17(52)	23(27)	40(40)	29(28)	34(41)	6(24)	57(36)	4(17)	59(37)
14①	32(21)	1(3)	22(26)	11(11)	27(26)	6(7)	5(20)	28(18)	6(25)	27(17)
②	120(79)	32(97)	63(74)	89(89)	76(74)	76(93)	20(80)	132(83)	18(75)	134(83)
15①	90(59)	8(24)	49(58)	49(49)	62(60)	36(44)	16(64)	82(51)	17(71)	81(50)
②	62(41)	25(76)	36(42)	51(51)	41(40)	46(56)	9(36)	78(49)	7(29)	80(50)
①	20(13)	4(12)	6(7)	18(18)	14(14)	10(12)	8(32)	16(10)	3(13)	21(13)
16②	72(47)	15(45)	43(51)	44(44)	49(48)	38(46)	8(32)	79(49)	13(54)	74(46)
③	60(39)	14(42)	36(42)	38(38)	40(39)	34(41)	9(36)	65(41)	8(33)	66(41)
2年	59(39)	21(64)	29(34)	51(51)	41(40)	39(48)	8(32)	72(45)	10(42)	70(43)
3年	93(61)	12(36)	56(66)	49(49)	62(60)	43(52)	17(68)	88(55)	14(58)	91(57)
	n=152	n=33	n=85	n=100	n=103	n=82	n=25	n=160	n=24	n=161

第１回調査クロス表　－４

	13		14		15		16		
	①	②	①	②	①	②	①	②	③
1①	66(54)	25(40)	17(52)	74(49)	53(54)	38(44)	13(54)	41(47)	37(50)
②	56(46)	38(60)	16(48)	78(51)	45(46)	49(56)	11(46)	46(53)	37(50)
20	29(24)	25(40)	7(21)	47(31)	24(24)	30(34)	7(29)	24(28)	23(31)
21	66(54)	25(40)	19(58)	72(47)	50(51)	41(47)	8(33)	46(53)	37(50)
2 22	22(18)	12(19)	7(21)	27(18)	20(20)	14(16)	9(38)	14(16)	11(15)
23	2(2)	0(0)	0(0)	2(1)	1(1)	1(1)	0(0)	1(1)	1(1)
24	2(2)	1(2)	0(0)	3(2)	2(2)	1(1)	0(0)	1(1)	2(3)
25	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
26	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)
3①	93(76)	39(62)	24(73)	108(71)	72(73)	60(69)	18(75)	58(67)	56(76)
②	29(24)	24(38)	9(27)	44(29)	26(27)	27(31)	6(25)	29(33)	18(24)
a①	61(50)	26(41)	18(55)	69(45)	49(50)	38(44)	14(58)	45(52)	28(38)
②	61(50)	37(59)	15(45)	83(55)	49(50)	49(56)	10(42)	42(48)	46(62)
b①	42(34)	9(14)	16(48)	35(23)	34(35)	17(20)	9(38)	22(25)	20(27)
②	80(66)	54(86)	17(52)	117(77)	64(65)	70(80)	15(63)	65(75)	54(73)
4①	71(58)	29(46)	19(58)	81(53)	50(51)	50(57)	14(58)	40(46)	46(62)
②	51(42)	34(54)	14(42)	71(47)	48(49)	37(43)	10(42)	47(54)	28(38)
5①	100(82)	57(90)	32(97)	125(82)	80(82)	77(89)	23(96)	72(83)	62(84)
②	22(18)	6(10)	1(3)	27(18)	18(18)	10(11)	1(4)	15(17)	12(16)
6①	59(48)	24(38)	18(55)	65(43)	54(55)	29(33)	14(58)	38(44)	31(42)
②	63(52)	39(62)	15(45)	87(57)	44(45)	58(67)	10(42)	49(56)	43(58)
7①	65(53)	28(44)	25(76)	68(45)	62(63)	31(36)	17(71)	36(41)	40(54)
②	57(47)	35(56)	8(24)	84(55)	36(37)	56(64)	7(29)	51(59)	34(46)
8①	106(87)	46(73)	32(97)	120(79)	90(92)	62(71)	20(83)	72(83)	60(81)
②	16(13)	17(27)	1(3)	32(21)	8(8)	25(29)	4(17)	15(17)	14(19)
9①	62(51)	23(37)	22(67)	63(41)	49(50)	36(41)	6(25)	43(49)	36(49)
②	60(49)	40(63)	11(33)	89(59)	49(50)	51(59)	18(75)	44(51)	38(51)
10①	74(61)	29(46)	27(82)	76(50)	62(63)	41(47)	14(58)	49(56)	40(54)
②	48(39)	34(54)	6(18)	76(50)	36(37)	46(53)	10(42)	38(44)	34(46)
11①	19(16)	6(10)	5(15)	20(13)	16(16)	9(10)	8(33)	8(9)	9(12)
②	103(84)	57(90)	28(85)	132(87)	82(84)	78(90)	16(67)	79(91)	65(88)
12①	20(16)	4(6)	6(18)	18(12)	17(17)	7(8)	3(13)	13(15)	8(11)
②	102(84)	59(94)	27(82)	134(88)	81(83)	80(92)	21(88)	74(85)	66(89)
13①			29(88)	93(61)	72(73)	50(57)	16(67)	59(68)	47(64)
②			4(12)	59(39)	26(27)	37(43)	8(33)	28(32)	27(36)
14①	29(24)	4(6)			25(26)	8(9)	5(21)	17(20)	11(15)
②	93(76)	59(94)			73(74)	79(91)	19(79)	70(80)	63(85)
15①	72(59)	26(41)	25(76)	73(48)			15(63)	43(49)	40(54)
②	50(41)	37(59)	8(24)	79(52)			9(38)	44(51)	34(46)
①	16(13)	8(13)	5(15)	19(13)	15(15)	9(10)			
16②	59(48)	28(44)	17(52)	70(46)	43(44)	44(51)			
③	47(39)	27(43)	11(33)	63(41)	40(41)	34(39)			
2年	51(42)	29(46)	14(42)	66(43)	40(41)	40(46)	10(42)	36(41)	34(46)
3年	71(58)	34(54)	19(58)	86(57)	58(59)	47(54)	14(58)	51(59)	40(54)
	n=122	n=63	n=33	n=152	n=98	n=87	n=24	n=87	n=74

第１回調査クロス表　－５

		２年	３年
1	①	42(53)	49(47)
	②	38(48)	56(53)
2	20	53(66)	1(1)
	21	21(26)	70(67)
	22	5(6)	29(28)
	23	0(0)	2(2)
	24	1(1)	2(2)
	25	0(0)	0(0)
	26	0(0)	1(1)
3	①	49(61)	83(79)
	②	31(39)	22(21)
a	①	20(25)	67(64)
	②	60(75)	38(36)
b	①	9(11)	42(40)
	②	71(89)	63(60)
4	①	45(56)	55(52)
	②	35(44)	50(48)
5	①	68(85)	89(85)
	②	12(15)	16(15)
6	①	36(45)	47(45)
	②	44(55)	58(55)
7	①	36(45)	57(54)
	②	44(55)	48(46)
8	①	59(74)	93(89)
	②	21(26)	12(11)
9	①	29(36)	56(53)
	②	51(64)	49(47)
10	①	41(51)	62(59)
	②	39(49)	43(41)
11	①	8(10)	17(16)
	②	72(90)	88(84)
12	①	10(13)	14(13)
	②	70(88)	91(87)
13	①	51(64)	71(68)
	②	29(36)	34(32)
14	①	14(18)	19(18)
	②	66(83)	86(82)
15	①	40(50)	58(55)
	②	40(50)	47(45)
16	①	10(13)	14(13)
	②	36(45)	51(49)
	③	34(43)	40(38)
2年			
3年			

n=80　　n=105